特249
914

呈

昭和十一年

山東省東部地方巡廻診療報告

同仁會青島醫院巡廻診療班

始

特249
914

序

昭和十年十二月同仁會醫院長會議に於て各醫院は座して患者の來院を俟つのみに止らず進んで廣く民衆の疾苦を[illegible]地域なり進り出て地方巡廻診療を計ることは同仁會醫院として當然の責務なりとする提案に新し各醫院長何れも之に同意し昭和十一年度以降毎年適當の地區を選定して巡廻診療を開施することとなれり茲に於て同仁會青島醫院は本年五月第一回診療班を山東省東部即墨、平度、掖、昌邑、濰の五縣地方に同年十月第二回診療班を同じく南部膠、高密、昌邑、益都の四縣地方に巡廻診療を實行して相當の成績を擧げたり而して其任に當りたる診療班の勞苦に至りては想察に餘りあるもの頗る多し今其の診療報告書を印刷して共班の業績を記錄し以て將來の參考に供せんとするに當り茲に巡廻診療事業成立の由緣を述べて序文に代ふ

昭和十二年二月

同仁會理事
小野得一郎識

發行所寄贈本

第一回巡廻診療報告目次

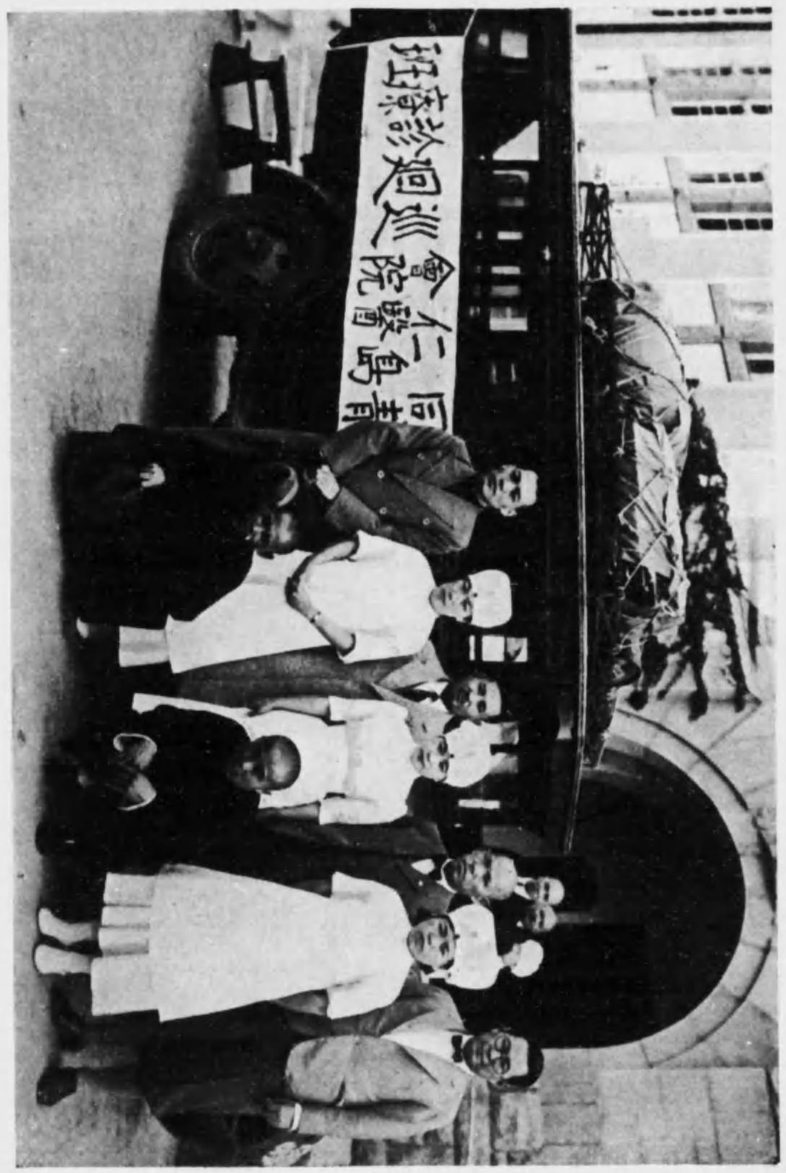
一、序　言……1
二、巡廻地の選定……1
三、診療日程……2
四、診療班の編成……3
五、準備作業……4
六、携行品目……5
一、醫療器具……5
二、衛生材料……6
三、藥　劑……7
四、雜　用　品……8
七、巡廻診療概況……9
八、實施成績……33
一、病類別患者統計表……33

二、男女別患者統計表……34
三、年齢別患者統計表……35
九、經費出納事項……36
十、診療後の感想並びに將來の巡廻診療に對する希望……38

第二回巡廻診療報告目次

一、序　言……43
二、巡廻地の選定……43
三、診療實施日程……45
四、診療班の編成と職務分擔……46
五、準備作業……48
六、携行品目……48
一、醫療器具……50
二、衛生材料……50
三、藥　劑……53
四、雜　品……54
七、巡廻診療概況……72
八、實施成績……

男女別統計表……72
年齢別統計表……73
各科別統計表……73
新患舊患統計表……74
病類別統計表……75
投藥數統計表……77
九、經費出納事項……78
十、診療後の感想並びに將來の巡廻診療班に對する希望……79



第一回巡廻診療班

第二回巡廻診療班

同仁會青島醫院診療班

山東省東部地方巡廻診療報告（第一回）

一、序　言

同仁會青島醫院は昭和十一年五月十一日より同月二十六日に至る十六日間、主として膠濟鐵路北部地方に於て昭和十一年度第一回巡廻診療を實施した。當醫院開設以來初めての企てであるから、準備其他に於て種々不滿足なる點があり、且又奥地の人心兎角動搖の折柄にも拘らず、豫期以上の好成績を擧げ得たものと信ずる。

二、巡廻地の選定

巡廻地として選定したる地域は山東省東部平野の一部分で、診療實施地點は略圖に示す如く即墨、平度、沙河、昌邑及び濰縣の五箇所である。此地方は膠濟鐵路より數十支里を隔つる僻地ではあるが近時山東省政府の建設による自動車專用道路が略々完成し、青島との交通漸く頻繁を加へてゐる。

各診療地間の距離、並に自動車による通過所要時間は左の通り。

青島——即墨　八十　支里（日本里數約十四里）二時間
即墨——平度　百五十支里（同　二十五里）四時間
平度——沙河　七十五支里（同　十三里）二時間
沙河——昌邑　八十二支里（同　十四里）二時間
昌邑——濰縣　六十　支里（同　十　里）一時間半
濰縣——青島　三百　支里（同　五十里）六時間（汽車）

以上五箇所の診療地中、邦人の居住する市邑は濰縣のみて其他には全く邦人の姿を見ず、且邦人の旅行する事も極めて稀てある。

三、診療日程

各巡廻地に於ける診療日程として豫定したる日割は左の通りて、其通りに實施することを得た。

一、即墨（自五月十二日　至同十三日）二日間
二、平度（自同十五日　至同十六日）二日間
三、沙河（自同十八日　至同十九日）二日間
四、昌邑（自同二十一日　至同二十二日）二日間
五、濰郡（自同二十四日　至同二十五日）二日間

四、診療班の編成

診療班は日本人醫員一名を班長とし、之に中國人醫員一名、日本人調劑員並事務員各一名、看護婦三名（日本人一、中國人二）及び中國人傭人一名を配して編成した。特に中國人看護婦は、診療地方出身の者を選んだ。

班長以下の氏名左の如し。

班長	醫員	諏訪　瀚
班員	同	張　清和
同	調劑員	中村喜内
同	事務員	田沼與助
同	看護婦	長瀬千代乃
同	同	張　淑訓
同	同	李　心貞

同　　傭　　人　　劉　　芳　　廷

其の他に班員一同の希望により、雜用夫として中國人王福亭を同行させた。

五、準　備　作　業

（一）護照下附並便宜供與に就き交渉

今回巡廻地方の旅行には護照携帶が必要であるので、出發前當地總領事館を通じ護照の下附を受け、尙又時に匪賊出沒の虞あれば班員の安全を期するため、中國官憲に適當の保護を與へられむ事を依頼した。

（二）準備宣傳員派遣

前記の次第で各診療地の官憲に對しては省政府から適當の指示を與へらるゝ筈であるが、尙診療班の行動の圓滑を期するには實地踏査の必要があるから、實施に先つて長澤事務長を該地方に派遣し、診療所の選定並に宣傳、班員の宿舍等に就いて調査をすることゝなり、長澤事務長は通譯として劉班員を帶同して五月六日青島を出發、各診療地の縣政府及公安局等訪問して來意を告げたる所、何れも深くこの事業に對し感謝の意を表され、診療所の無償貸與並診療班員の宿舍其の他に付ても懇切なる配慮を與ふる旨を申し述べられた。そこで、携行の宣傳ビラ（長さ三尺巾二尺五寸餘）數十枚を要所に掲示すること及び免費診療券千五百枚（一地方三百枚づゝ）の分配交付方を依頼し、診療所とすべき家屋を檢分し、途中交通道路の狀況等を視察の上、同月八日青島に歸還した。

宣傳用貼紙（赤色紙）

我東京財團法人同仁會因欲在亞洲各國
普及醫藥學識暨發揮技術並改良一般衛
生狀態起見在北京漢口濟南青島等處設
立醫院有年荷蒙
各界人士贊助業務逐漸發達已臻上境此
次派遣巡廻診療團乃從事於醫藥濟民之
旨望苦於病魔者就診是幸
月　日　　同仁會青島醫院敬白

五月十二日
五月十三日　即墨

免費診療券

同仁會青島醫院巡廻診療班

六、携　行　品　目

（一）醫療器具

內科一般用

聽診器	二	
體溫計	三	
舌壓子	五	
卷尺	一	
種痘用具	一式	
腰椎穿刺器	一式	
浣腸器	二	
注射器	二cc	三

注射器　二〇cc　二
同　五〇cc　二

外科一般用

外科刀　三
鑷子　五
鋏　三
止血鉗子　一〇
鋭匙　二
二雙鈎　二
消息子　三
持針器　二
縫合針　一〇
縫合絲　二束
ゴム驅血帶　一
膿盆　二
尿道カテーテル　二

耳鼻科、眼科、齒科用

耳用捲綿子　一〇
鼻用捲綿子　一〇
喉頭捲綿子　二
額帶鏡　二
耳鏡　三
鼻鏡　三
點眼壜　三
開喉器　一
受水器　二
硝子棒　二
抜齒鉗子　二
診斷用電燈　二

(二) 衛生材料

ガーゼ　五〇反
脱脂綿　三磅

卷軸帶　四裂　五〇卷
同　五裂　五〇卷
油紙　二箱
三角巾　二〇枚
亞鉛華絆創膏　五罐

(三) 藥劑

内用藥

マーゲン散　二、〇〇〇瓦
アスピリン　一磅
重曹　五磅
健胃錠　五瓶
カルモチン　二五瓦
エバニン末　三磅
ラキサトール錠　五十入　五瓶
燐酸コデイン　三オンス
サントニン　九オンス
ミグレニン　九瓦
タンナルビン　九オンス
安那加　二〇瓦
ヂウレチン　四〇瓦
ヒマシ油　一磅
臭剝　一磅

外用藥

硼酸軟膏　一〇瓦
亞鉛華オレーフ油　九オンス
リバノール液(千倍)　二〇〇瓦
二%マーキュロクローム　五〇瓦
沃度丁幾　五〇瓦
沃度ホルム末　一磅
蔘硫膏　二磅
オキシフル　一〇〇瓦
亞澱散　九オンス

クレゾール石鹸液　一磅
昇汞錠　千個入　一瓶
石油ベンヂン　五磅
酒精　一〇磅
弱ルゴール液　九オンス

（四）雑用品

ヅック製折疊寢臺　八
茶褐毛布　一六
作業衣　一二
懐中電燈　二
電池豫備　四
算盤　一
紙挾　二
物差（一尺）　一
吸取器　二
洗面器　四
石鹸入　二
石油焜爐　一
石鹸　二打
アルコール噴霧器　一
雑用鋏　一
湯呑　一〇
栓抜　二
藥鑵　二
鉛筆　五
色鉛筆　三
青インク　三
ペン軸　三
ペン先　三〇
不易糊　三
蠟燭　二打
燐寸　一函

止鋲　一箱
國旗　一
半紙罫紙　二〇〇枚
メモ　四冊
封筒　五〇
復寫紙　一打
ノート　二冊
タオル　一打
今津蠅取粉　一箱
縫針　五
木綿糸　二束
赤十字旗　二
鍋　二
庖丁　一
俎　一
茶盒　一
飯茶椀　一〇
小皿　五

七、巡廻診療概況

（一）診療豫定表

診療地に於ける行動の圓滑を期して出發前に作製した豫定表は左の通りである。

五月十一日（月）午前八時病院正門出發。午前十時即墨着。直ちに縣政府訪問、診療所開設。
五月十二日（火）診療（午前八時より午後五時迄）
五月十三日（水）同上

五月十四日（木）午前八時即墨出發。正午頃平度着。縣政府訪問後、診療所開設。
五月十五日（金）診療（午前八時より午後五時迄）
五月十六日（土）同上
五月十七日（日）午前八時平度出發。午前十時頃沙河着。公安局訪問（當地に縣政府なし）診療所開設。
五月十八日（月）診療（午前八時より午後五時迄）
五月十九日（火）同上
五月二十日（水）午前八時沙河出發。午前十時頃昌邑着。縣政府訪問後診療所開設。
五月二十一日（木）診療（午前八時より午後五時迄）
五月二十二日（金）同上
五月二十三日（土）午前八時昌邑出發。午前十時頃濰縣着。縣政府訪問後診療所開設。
五月二十四日（日）診療（午前八時より午後五時迄）
五月二十五日（月）同上
五月二十六日（火）午後零時四十分濰縣驛出發。午後六時青島驛着。歸院、解散。

診療班の行動は大體上記の豫定表通り順調に進めることが出來たが、止むを得ぬ事情の爲豫定を變更したことが二度あつた。五月十七日朝平度を出發する筈の所、同地で借入れる自動車が前日（十六日）の午後の外都合つかず、止むを得ず豫定を變更して十六日の午後六時平度を出發即日午後十時頃沙河へ到着したのと、二十日沙河

を出發する豫定も同樣自動車借入の都合上一日繰上げ、十九日の午後五時沙河出發、午後六時三十分昌邑に到着した。かうした旅行には全く不慣れな一行の行く先々の土地が何れも交通不便な地方ばかりで、豫定計畫の通り行動するだけでも誠に容易ならざる努力であるが、兎も角順調に進行し、最後迄一人の落伍者を出さなかつたのは班員一同の敏速な行動と不斷の緊張の賜であらうと思ふ。

（二）診療日記

五月十一日（月）曇後晴

午前七時三十分班員一同病院本館前に集合、豫め準備した大型乘合自動車に、携行品の積込みをする。午前八時、職員全部の出勤を待つて、班員を中心に紀念撮影を行ひ、愈々出發の際に當り院長から懇切な訓示と激勵の言葉とを受け、午前八時三十分盛んな見送りの中に出發した。此の日早朝から雲が低く今にも雨の降り出しさうな空模樣であつたが、青島を出離れる頃から晴れ渡つて來た。

青島から第一診療地の即墨迄は八十支里、日本里數で十四里といふが、僅か一時間半、午前十時には即墨城外の自動車發着所に到着した。一行はそのまゝ自動車で城内の縣政府へ行かうとしたが、城内へは自動車の通行を許さぬ規則といふ事である、併し多數の携行品を一つ一つ城内の中心地まで運搬するのは容易な事ではないので、土地の汽車公會（汽車は自動車のこと）に交渉を重ねた結果、漸く城内に乘り入れを許可された。城内の道路は自動車が一臺漸く通り得る程の狹さである。

一行は縣政府の前で自動車から降り、縣長の苗恩波氏に面會を求めた。苗氏は五十歳餘りの頗る溫厚な大人で

吾々の來訪を非常に喜び、早速巡警數名を案内として、豫め定められた診療所に一行を導いた。此の診療所の建物は縣教育會館の一部で、暫く空き家だつたので甚しく汚れてはゐるが、診療具を配置したり、日用品などを並べてみると、どうやら田舎の診療所らしい光景にはなつた。

市中に適當な旅館がなく、旅館と名のつく家も診療所と同程度の陋屋なので、一行は診療所内に宿泊することとし、携行の折たゝみベットを土間に並べて軍隊用毛布を被つて窮屈な眠りに就いた。夜更けて窓から外を見ると、銃劍を擔つた數名の巡警が、折柄降り始めた霧雨に濡れながら、闇の中にしよんぼりと立ち番をしてゐた。

即墨診療所

五月十二日（火）雨

夜來の雨は朝になつて到頭本降りとなり、此分では折角の診療第一日も不成績に終りはせぬかと一同少なからず懸念してゐたが、定刻の午前八時に診療所の門を開くや否や、門前に待ち構へてゐたらしい患者が續々と診療室に這入つて來た。

午前十時頃迄には八十餘名に達し、此調子では相當に集るかも知れぬと緊張してゐたが、雨は段々と劇しくなり、午後には患者の足並みも途絶え勝ちになつた。午後五時診療を打ち切り、患者數を算へてみると僅かに百二十七名であつた。その中男子八十九名、女子三十八名（患者の病類別、男女別、並びに年齢別統計表は全部別項

にあり）。

診療を開始して第一番に診療した患者が、かなり高度のレプラだつたのには少なからず辟易した。此の調子ではまだ續々とやつてくるに違ひないと内心大いに警戒をしたが、唯一人診察しただけで濟んだ。此のレプラ患者は、縣の衛生課に通報して、適當の處置をとらせる事とした。

夜に入つて雨は一段と劇しく降りつゞいた、電燈のない街は陽が落ちると同時に眞の闇である。蠟燭の灯も初めの中は大變不自由に感じたが、少し慣れると大した不便を感じないやうになつた。

即墨は、數千年の歴史を持つ有名な古城市で、現在人口は城内に二千、城外に一千、城壁は全長五支里もあつて、歩るいて一周するのに約一時間半はかゝる。

即墨城内主要道路

市内で開業の醫院と稱するもの八戸、大部分藥店の兼業である。醫術は漢方が主で洋式を取り入れてゐるのは一二軒に過ぎぬ。それも蠟燭の代りに石油ランプを使用したといふ位の程度である。

飲料水は非常に硬質な地下水であつて、此の地方に膀胱結石患者の多いのは或は此の水によるものかとも思はれる。

青島に割合近距離なためか、相當知識階級の患者は、青島へ出てそれぞれ有力な醫師の治療を受けるといふ事である。此の日診療を施した患者の中にも後日同仁會醫院を訪れ度いが入院料其他の費用は何程かといふ質問を發した者も再三あつた。

五月十三日（水）雨後晴

雨は昨夜中小止みなく降りつゞいたけれど、今朝午前八時診療を開始する頃には小降りとなり、九時頃には雲も切れて所々青空が見え初めた。

縣長が公安局長の常冠英氏と一緒に、わざわざ診療所を視察に來られた。

卽墨診療所

雨が全く降り止むと患者は急に增えて診療所の入口に長い列を作るやうになつた。班長と張醫員は長瀨、李、張の看護婦を指揮して患者を診察する。中村調劑員は、ひつきりなしに注文される藥品を、それこそ目も止まらぬ早業で調合し、藥包紙に包み込む。田沼事務員は時折り訪問する土地の新聞記者とか縣の役人と應接し、その合ひ間に患者の統計やら報告書の作製に寸暇なく、それこそ戰場のやうな騷ぎである。

本日の患者數二百八十三名。中、男子百八十五名、女子九十八名。疾病の中、最多數を占めたのは眼病であつた(別紙病類別表參照)。これは他の

卽墨城內

診療地にも共通の現象であつて、その中でもトラホームが主位を占める。之に次ぐのは胃腸病である。蛔虫寄生者の數の夥しいのは勿論である。どんな疾病でも、診察の際に一度は脈をとらないと患者は滿足をしない。右腕の脈をとると、今度は左腕を出す、これにも一寸さはらぬと如何にも不平さうな顏付をする。聽診器をあてがふと、恐れをなして身をしりぞける者の多いのには驚いた。骨膜炎や、骨髓炎の大きな瘻孔に、汚ない紙きれがべた〳〵と貼りつけてあつて、それをはがすと、鼻をつく樣な臭い膿汁がどろ〳〵と流れ出る者も再三あつた。今まで藥らしい藥を飲んだ事のない大多數の患者は初めて與へられた藥がよく效くものと見え、翌日わざわざ禮を云ひに來た老人さへもあつた。眼病の患者の中には、是非眼藥を少し分けて呉れといふ者もかなり澤山ゐた。次回からは、小形の壜にでも入れて與へたら大變感謝される事と思ふ。

午後五時診療所を閉鎖し、藥劑、醫療具、其他の物品を檢査の上取纏め、翌朝出發の準備をする。午後六時、苗縣長、常公安局長等を義盛恒といふ飯店に招待し、到着以來色々と斡旋の勞を惜しまず、よく面倒を見て頂いた好意を謝した。苗氏は子息がつい最近迄、同仁會醫院に入院してゐた事もあり、吾々とも多少面識の間柄なので、此の招待を大變喜んでゐられた。近來、縣の役人の間に日本語研究熱が高まつてゐるので是非適當な日本語

の教師の世話を頼むといふ事であつた。和氣藹々の中に充分親善の目的を果して午後九時散會。

五月十四日（木）晴

即墨から第二診療地の平度迄は百五十支里、日本里數で二十五里もあり、自動車で順調に走つても四時間はかかるといふ。

バスの借入れに、昨日午後自動車發着所（車站）に行つて交渉した所、連日の降雨で道路が數ヶ所崩壞してゐるから、通行は出來ない、若し午後からでも雨が上つて陽が照り出したら或は通行出來るかも知れぬと云ふ至極心細い返答であつた。幸にも昨日の午後から快晴となつたので、今朝は必ずバスを借入れられるものと信じて車站に行つて交渉した所が、お氣の毒だが道路がまだ充分に乾かぬから使用が出來ぬといふ劍もほろろの挨拶である。日程の定められた多忙な旅行であるから、こんな所で具圖々々してゐる譯にも行かず、名刺をつきつけて車站長に面會し診療班の使命を懇々と語り、何としても今日出發しなければならないからと交渉に交渉を重ねた結果、漸くバスを借り入れることが出來た。此の車站長といふのが十七八歳の少年でありその命令によつて立ち所に下役の態度が變じたのには一同思はず顏見合せて驚いた。さて荷物の積込みも終り縣長に挨拶を濟ませ、漸く即墨の城門を出たのは午前九時五十分であつた。

即墨を離れると間もなく見渡す限り廣漠と打續く平原を走り出した。空は突き拔けるやうに晴れ渡つてゐるが、雨に破壞された道路は豫想以上にひどいものであつた。深い凹みに車輪が落ち込むと、バスの天井にいやと云ふ程腦天を打ちつけたり、或る時は前のめりに倒れて荷物の木箱に額を打ちつけたり、實に慘々な目にあはさ

れた。遂に一同の顏色が蒼白になつたので一先づバスを停めて下車すると、今度は嘔吐を始める者も出來た。午後三時頃漸く目的地平度へ着いて城門の前に下車した時は、一同口も利けぬ程くた〳〵になつてゐた。

此處では絕對に自動車の城内通行を許さぬので、自動車を城外に乘りすてゝ、城門をくゞり縣政府を訪れた。先づ縣長の丁世平氏に面會を申込んだところ不在の由、第一科長の某氏が代理で一行を引見した。そこで班長は先づ到着の挨拶をし、扨今回の巡廻診療に就いては色々と御面倒を御願ひして申譯けなし、就いては先般御依頼して置いた診療券の配布、及び宣傳用のビラの掲示等は如何でせうかと尋ねたところ、自分には何もよく判らぬから公安局長に聞いて呉れとのこと、その態度言語に誠に面白からぬものがあつた。その中、公安局長の張正森といふ人が現はれて我々を一先づ診療所に案内して呉れた。局長の言によると、診療券の配布もビラの掲示もまだ濟んで居らぬといふことだつた。診療所として借り受ける建物は、山東省進德會平度支部の一部分で、城外の寂しい林の中に在つた。勿論住宅として造られたものではないので便所の設備もなく、吾々は附近の林の中にアンペラを張り穴を堀つて厠から急造しなければならなかつた。

まだ三十歳になるかならぬ張局長は、いかにも迷惑さうに吾々に向つて、なるべく此の附近から一歩も外出しないやうにして呉れと云ふ。といふのは此の附近には相當多くの土匪も住んでゐることだし、若し間違ひがあつては申し譯けがないといふ理由なのであつた。元來平度地方は昔から排日的氣風の濃厚な土地といふことは聞いてゐたが、到着早々外出を禁じられたり二十餘名の物々しい巡警に警護をされてみると、なるほどこれは噂に違はず物騷千萬な土地ではあると、内心聊か不安を感ぜずには居られなかつた。勿論此處でも一行は診療所内に宿

泊することゝした。夜更けに戸外の厠所へ出かけると、いきなり鼻先きに懐中電燈をつきつけて誰何されたのには肝をつぶした。アンペラのかげから闇をすかしてあたりをうかゞふと、銃劍をかゝへた警官が二十名程、林の中にじつとうづくまつてゐた。

五月十五日（金）晴

午前八時診療開始。診療室は正面の壁に大きな孫總理の像がかけてある廣い講堂である。住民の氣風から考へて、患者は餘り多くはあるまいと豫想してゐた所が、診療開始早々押すな押すなの好景氣だつたのにはまことに意外だつた。二名の巡警が室の入口で整理をするけれども、後から〳〵と押し寄せる患者は忽ちの中に室内に溢れてしまふ程であつた。午前中の來患數二百五十餘名。午後少しく閑散となつたが三時頃又續々とつめかけて來た。此の日の患者總數三百八十七名。中、男子百六名女子二百八十一名。

平度診療所

患者の中、女子の數が男子の數の約三倍に達してゐるのは面白い現象である。これは即墨を除く他の四地方に共通の現象であつた。此處でも亦眼病が斷然首位を占めてゐる。患者の大多數は貧農らしい、營養の頗る劣等な者が隨分多く見受けられる。身體の不潔なことも亦お話にならぬ。此の地方は青島からかなり隔たつてゐるためか、住民は殆ど同仁會醫院の存在を知らぬらしい。次回からは、患者に與

へる藥袋の裏の白紙にでも、簡單に病院の記事を印刷して置けば、宣傳の上にも大變效果があることゝ思ふ。

五月十六日（土）雨後晴

午前四時頃突然車軸を流す樣な雨が降り出し六時頃には物凄い雷鳴さへ轟き、診療所の附近はさながら泥田の樣になつた。午前八時頃には稍小雨となつたので、診療所を開いたところが患者は一向に來さうもない。その中雨が上つて青空が見え出した頃、ぬかるみの道をひろひ〳〵三々五々連れ立つて集り、十時頃にはかなりの數に達した。

晝食後、城内を視察しやうとしたが、縣長の命令であるからどうか思ひ止まつて呉れと云ふ、吾々は折角こんな遠方まで諸君のために來てゐるのだし、短時間で結構だから見物させては呉れまいかと公安局長に懇望した。局長は一先づ立ち戻つたが、まもなく當局の諒解を得たものと見え、局長自身、武裝した巡警五名を引率して吾々を案内して呉れた。

平度は戸數三千、人口一萬と云ふが城内を歩るいて見た所では人口三千か四千位の寂しい町であつた。即墨の何處となく落ち付いた靜かな氣分に比べて、此の町はいかにも索漠とした感じを起させる。城内の衛生狀態、醫療機關その他を視察する筈であつたが、公安局長は主要道路を素通りしただけで忽惶として城外に出てしまつたので何の得る所もなかつた。

平度診療所

午後再び診療に従事する。患者又意外の多數で前日同様の混雜を極めた。患者總數二百二十七名。中、男子九十八名、女子百二十八名。此の日頸腺結核の既に化膿せる者三名、及び脛骨々膜炎の化膿せる者一名に切開手術を加へた。尙特筆すべきは肺結核患者の多いことである。腦溢血後の半身不隨症の老人を板にのせて擔ぎ込まれたが、これには何とも手がつけられぬ。脊椎カリエスの流注膿瘍の破壞せる者も多數あり、かゝる患者に病氣の說明をするのも又一苦勞である。

午後六時に、縣長及び公安局長を招待懇談したいと案内を出したが、縣長は辭退、公安局長のみ出席するといふ返答であつた。その前に明日使用するバスを借入れなくてはならないので、五時に診療を打ち切るとすぐ樣、又も物々しい警護付で車站に出張して交渉をすると、明日は縣長が突然の公用でバスを使用する事になつたから貸すことは出來ないといふ。といつて一日無駄に過ごすわけにも行かぬので、では今これからすぐ出發するのならば貸して呉れるかと尋ねると、六時までに出發出來れば貸してもよいといふ。吾々はその場で協議の上、意を決して即刻出發することに定め、バスを借入れて診療所に立ち戻り、一同有り合せの食物を腹につめ込み、夜逃げさながらの急スピードで荷物の梱包を行ひ、一切の積み込みを終つたのが六時十分。今夜折角催す筈であつた公安局長の招待會も中止となつたが、どうぞ悪しからずとお詫びすると、局長も吾々の立場を了解したものと見え、意に介せぬ樣子、却つて吾々厄介者が思つたより早く立ち去るのを心ひそかに喜んでゐるかの樣に思はれた。

平度から第三診療地の沙河迄は七十五支里、自動車で約一時間三十分餘の行程である。午後六時出發すれば、

遲くも八時迄には沙河へ着くものと考へて平度を出發したが、その豫想は美事にはづれてしまつた。昨夜からの豪雨で道路は車輪を沒する程の泥濘ではあるし、所々道を横切つて流れる小川は、水量を增して矢の樣な勢である。運轉手はこの流れを越すべきでないかと大分迷つてゐた樣だつたが、思ひ切つて勢よく水を蹴つて押し進んだ。忽ち車體が右左に大きく搖れてあはや轉覆と思はれた時は一同思はず顏を見合せてはつとした。どうやら轉覆を免れたけれど車輪は深い泥の中にめり込んで空廻りする、全員下車して車の後押しをやらなければならない。苦心慘憺の末、沙河城外へ着いたのが、午後十時三十分、四時間餘りを費した。夜氣は氷の樣に冷たく一行は毛布にくるまつて城内へ入つた。

平度を出發する際、張局長に依頼して沙河の公安局長へ一行の出發を打電して貰つたので、沙河公安局では七時三十分頃から迎へを出して今か〳〵と待つてゐたさうである。自動車が沙河に近づいた頃、はるか闇の中に懐中電燈らしい光が五つ六つ動いてゐるのを見て、吾々は漸く蘇生の思ひがしたものである。公安局の人々は、大變叮重な態度で吾々を迎へ、すぐさま公安局前の診療所に案内して呉れた。この診療所は道路に面した人家を通り拔け更にもう一つの人家を横切り尙二つか三つの倉庫を通り拔けた一番奥の穴倉の樣な陰鬱な建物だつた。が此の土地の役人の態度が、平度に於けるそれに比し、雲泥の相違であつたのは、吾々の第一印象を此上なく快よくした。かなり夜も更けてゐたので、公安局長には明日面會することとして、午前一時頃、一同毛布にくるまつてベツトに横はつた。じめ〳〵と身體を襲ふかび臭い冷氣に、幾度か淺い眠りから起された。

五月十七日（日）晴

昨夜の奮闘で一行は綿の如く疲れてはゐたが、早朝に起床し昨夜面會するを得なかつた公安局長劉肇基氏を訪問した。沙河は縣政府所在地掖縣に次ぐ大きな町で、濰縣と芝罘とを繋ぐ所謂煙濰國道の沿道でも有數の地である。人口は三千餘と云ふも、城内に空地の散在するのは、此の土地の發展の餘り芳しくない事を物語つてゐると思ふ。市街は割合に整頓し、目抜の場所に數軒の大藥房が立ち並んでゐるが、勿論草根木皮の漢藥のみである。醫院と稱せられるものも二三見出したが何れも極めて小規模のものである。午後診療所開設の準備を終へると一同久し振りにゆつくり靜養した。

沙河診療所（向つて右の旗立てるところ）

五月十八日　（月）　晴後雨

早朝から街が何となく騒々しいので、外へ出てみると市が開かれてゐる。五日に一度の市ださうである。近隣の部落から集つた農民が、狭い路の兩側に並ぶ雜貨や魚介野菜などの店の間を右往左往してゐる。此の人出ならば、きつと患者も多いに違ひないとひそかに期待して、定刻八時に診療を開始したが、さつぱり客足が少なかつた。十時頃迄に僅か五十名餘りである。

其の内天候が俄に悪くなり十一時頃には雨が降りはじめた。市の商人等も瞬く間に店をたゝんで引き上げ、何時の間にか元の寂しい町になつてしまつた。午後雨の止み間に患者はぽつり〳〵と集つて來たが、午後五時終了

迄に、總數百二十八名に達しただけであつた。男子五十三名、女子七十五名。

診療終了後、明後日の朝借り入れるバスを早く豫約して置かないと、又以前の様な齟齬を來す虞れがあるので車站に出かけて交渉すると、案の定此の豫想は適中した。車站主任の言によると、明十九日と次の二十日の二日間は、省主席韓復榘が當地方巡視の豫定になつてゐるから、バスは借されないと云ふ。又かと思つたが、早速電話で、濰縣の車站に問ひ合せて貰ふと、二十日の朝はどうしても空車がない、明十九日の午後には一臺空くからと云ふ返答だつたので、出發を一日繰り上げる事にした。

バスの借入には何時も頭を惱ますが、交通不便な僻地の旅行であるから止むを得ない事かと思はれる。吳々も出發間際に交渉することは危險である。

午後六時、例によつて公安局長、商務總會長、其他の有力者を協盛飯店に招待して懇談した。劉公安局長は青島に日本人の友人も數名持つ程でかなり親日家らしい。片言まじりの日本語も吾々にとつてはうれしいものであつた。實は診療所として、商務總會の建物を貸す筈だつたが、會議の都合等で不可能となり、あんな汚ない場所で何とも申し譯けないと云ふのだつた。

五月十九日　（火）　晴

昨日は降雨の爲か患者は餘り集らなかつたが、今日は幸に早朝から快晴、吾々がまだ朝食をとらぬ前から、診療所前の空地に十數人の患者がうろ〳〵してゐた。定刻の八時には、既に數十名に達した。氣の毒なことには診療所の入口が民家のしかも料理屋である。家の中の通路を汚ない患者がぞろ〳〵と通り抜けるのはさぞ迷惑だつ

たらうし、患者も大分遠慮したであらう。午前中の患者百四十四名。

休息の時間に門前に立ち番をしてゐる巡警の銃を借りて、不圖手もとを見ると菊花御紋章が刻り込んである。日本の古い歩兵銃である。班長は昔習ひ覺えた腕前で、あざやかに銃を擔いだり、射撃の姿勢を見せてやると、日本は醫者まで軍事教練をやるのかと驚いてゐた。

午後零時半頃、公安局長から午餐に招待された。場所は診療所から少し離れた商務總會の應接室、商務總會々長その他二三人の人々が吾々を快よく歡待して呉れた。此の地方位青島から遠く離れると、同仁會醫院の存在を知る者は極少ないと見え、色々と説明を求められた。

午後二時から四時三十分迄診療。此の日の患者總數二百十二名。中、男九十一名、女百二十一名。

沙河城門

午後五時十分、公安局長等の見送りのもとに沙河を出發。此處から次の診療地昌邑迄は約八十支里あるが、此の間の道路は、大正十四年頃、鐵道敷地として造られたものだけあつて、殆ど一直線に近く、坦々たるアスファルトの道路を思はせるほどであつた。自動車の動搖も少なく、吾々は出發以來初めて快適な旅をすることが出來た。

約一時間後昌邑城外に到着。此處でも亦、城内に自動車を乗り入れる事を許されなかつたが、交渉の結果漸く

許可され、先づ例によつて縣政府を訪問した。縣長劉毓漳氏は、既に退廳時限を一時間以上も經過してゐるにも拘らず、沙河公安局から電話で通報があつて特に吾々一行の來訪を待ち受けてゐたさうである。六十才を越えたらしい溫顏の老大人であつた。

診療所として貸與された建物は、縣教育會館の一部であつて、構内には山東省進德會支部、圖書館、小學校などもあり、特に吾々の眼を驚かしたものは、衛生展覽室の設備であつた。傳染病菌の顯微鏡圖とか、赤痢其他の糞便の模型とか、梅毒の各期症候の蠟細工模型であるとか、或は胎兒のアルコール漬標本といふものまで整然と陳列されてあつた。壁には一面に衛生思想鼓吹の宣傳ポスターが張られてあつたが、乳兒死亡統計表に日本が斷然優勢を占めてゐたのには一寸恥しい思ひがした。吾々は此の一室を診療室として借り受ける事とした。一行の居室も、色々と懇切に心をくばつてあつたので、大變居心地がよく、出發以來初めてのびゝとした氣持でくつろぐことが出來た。

午後八時頃縣政務科長張耀甫氏、教育會館長于宗康氏がわざゝ訪ねて來られた。

五月二十日（水）晴

朝より快晴。今日は所定の診療日ではなかつたけれど、當地官憲の親切

昌邑診療所（教育會館）

な待遇に酬ゆる意味で、縣公署の關係者に限り、午前中だけ診療を行ふ事とした。此の臨時診療は大に感謝されたやうであつた。患者總數三十八名。午前十一時頃、縣長自身來訪し、午後六時から班員全部を晩餐に招待したいから、縣政府の縣長官舍迄來られ度しと云ふ事であつた。

午後城内を視察する。戸數人口ほゞ沙河と同數位であるが、道路のよく清掃されてゐるのには少なからず感心した。これは此の町獨特の道路清掃隊があるからで、此の清掃隊たるや、兩足に長い鎖をぶらさげた囚人達である。その囚人の服裝も特異なもので、上衣の右半分が赤、左半分が青、ズボンはその反對に右が青で左が赤といふ、丁度サーカスのピエロの樣ないでたちである。

城壁は今まで通つて來たどの町も同じであるが、所々風雨のために崩れ落ちてゐる部分はあつても、どつしりとした中々美事な築造物である。吾々異國の旅行者は、單に好奇の眼でこれを眺め、漫然とその上を遊歩してゐるけれども、遠く數千年の昔以來、此の土壁の内と外で、數知れぬさま〴〵の鬪爭、葛藤がくりかへされて來た事と思ふと、石の間に密生してゐる雜草の一つ一つのそよぎにも、深い感慨を抱かずにはゐられぬ。現在も尙、夕刻になれば、東西南北の城門が嚴重に閉鎖されるのを見ると、土匪の絶え間なき來襲に對する唯一の防禦陣なのかも知れぬ。

城内に醫院と稱するものが僅か二三軒しか見當らぬ。班員張看護婦の遠い親戚にあたるといふ某醫院を訪れて、不圖藥棚を見ると、ぎつしりと並べられた漢藥の片隅に、メイド、イン、チヤバンの近代藥を發見して、聊か心を強うした。歸路、この田舍にはめづらしい立派な塘池(風呂屋)を見出し、十日間の垢を漸く洗ひ落すこと

が出來た。

午後六時縣長の招宴に出席する。縣長は吾々一行を心から歡待し、吾々も亦同仁會の使命、巡廻診療の目的など詳しく説明して充分に日華親善の目的を果すことが出來た。午後九時散會。此の日、午前十時、同僚藤瀬看護婦逝去の報に接し、一同默禱、はるかに弔意を表した。

昌邑城内

五月二十一日（木）晴

定刻の午前八時診療開始。診療所の門を何氣なく開いて見たところ、もう餘程前から待ちもうけてゐたらしい二三十名の患者が、一時にどつと押し寄せて來たのには驚いた。これはとばかり、早速警護の巡警に群集の整理を頼み、さて愈々診療に從事したが、患者は刻々にその數を增すばかり、遂に二名の巡警では整理が困難となり、保安隊衛生班員の應援を見ることとなつた。何故此の町に限つて、こんなに多數の患者が雲集したかと云ふと、これは縣當局の宣傳方法が非常に懇切叮寧であつたからである。ポスターは賑かな街角には必ず貼つてあるし、ビラも充分に配布してあつたやうである。後になつて聞いた事ではあるが、商務總會長の孟といふ人が、自宅が城外十八支里の所にあるので、毎日退廳後、その附近の部落民に繰返し〳〵宣傳して呉れたさうである。

吾々も眼の廻る程多忙を極めたけれども、又非常に張り合ひがあつて愉快に活動する事が出來た。午前中の來患三百五十餘名、蓋し今迄の記錄破りである。午後には遂に藥品の一部に不足を來したので、本院に長途電話をかけ、鐵道便で濰縣日本人會宛に藥品の送付を請求しなければならぬ程であつた。

午後も亦午前中と同樣の多忙を極めた。午前午後の患者總數六百十七名。中、男二百八名、女四百九名。女子の數が此處でも亦絕對多數を占めてゐる。中に一名のロシア婦人が居た。みすぼらしい支那服をまとひ、流暢な支那語を使つてはゐるが、一ときは目だつ紅毛碧眼は、忽ち吾々の眼を惹いた。事情を聞いてみると、中國人に嫁して十年餘もこの僻村に住んでゐる、今は既に祖國に容れられず、寧ろ純朴な農民の生活に心から甘じて永住する覺悟であるといふ。診察を受けて一度姿を消したが、間もなく五六名の患者を引き連れて現はれた。

午後六時三十分、診療所內に縣長、公安局長、敎育館長、商務總會長の四名を招待し晩餐を共にする。賓客四名各れも溫厚質實な村夫子ばかり、歡談時の移るを知らず、九時散會。客を送つて外に出ると滿天に降るやうな星の群。

五月二十二日（金）晴

早朝、例の塘池へ行つたところ、入口には二名の巡警が立番をしてゐる

昌邑縣長官舍前にて（右から三人目縣長）

し、廣い浴室には一人の入浴者も見えない。湯は底が見える程澄明であるし、主人は吾々を下へも置かぬ待遇振りである。不審に思つて尋ねると、實は縣長の命令で診療班の人々が來るまでは誰も入浴させてはならぬ、湯も全部新しく換へて置けといふ事だつたさうである。

午前八時診療を開始する。天候は申し分なく、前日に劣らぬ盛況。昨日のロシア婦人が又患者を數名引き連れて來た。診療を受けてしまつても暫く立ち去り難いやうであつたが、陽の傾きかけた頃、幾度も謝禮の言葉を殘して、纏足の老母達と一緒に、とぼ〳〵と歸つて行く後姿はあはれであつた。

本日中の患者總數四百四十九名。中、男子百五十九名、女子二百九十名。此の土地に於ける二日間の患者總數遂に千名を突發した。住民の氣風にもよることながら、懇切な宣傳の結果であることは云ふまでもない。

五月二十三日（土）曇後晴

愈々最後の診療地たる濰縣に向つて出發する日である。一同早朝に荷造りを終り、縣政府に出頭して滯在中の好意を謝し、午前九時出發。縣長、公安局長はわざ〳〵車に乘つて駈けつけ、數十人の群集にまぢつて何時までも見送つてゐた。

昌邑と濰縣との間は約六十支里、道路は前に述べた通りの坦々たる自動車專用道路である。兩側に將來鐵道枕木として使用する爲に植えつけられたアカシアの枝には、ぼや白い花が一面に咲き亂れてゐた。

午前十時濰縣の東關城外に到着。濰縣は東關と南關の二つの城市からなり、縣政府は南關城內にあるので、吾々は東關の高い城壁に沿ふて南關の城門に達した。城門をくゞると城內はひどい雜踏であり、さすがに大都會ら

しい活氣を呈してゐた。縣政府に出頭したが、縣長は南京政府に出張中で面會する事が出來ず、第一科長某氏が代つて面接した。診療所は南關城內の縣教育會館內小學校講堂であつた。

濰縣は日獨戰爭後に邦人の數、數百名に達した事もあつたが、現在は僅かに五十餘名に過ぎないと云ふ。官憲並びに一般住民の絶えざる壓迫、迫害に耐えながら、ともかくも居殘つてゐる覺悟は悲愴なものである。この邦人達は、診療班の來訪を指折り數へて待つてゐると聞いたので、診療所に着くや否や、荷物の整理もそこ〳〵に、班長と面識のある日本人會幹事某氏を訪れた所、その人は日本人會を代表して日本人會副會長と共に、吾々を出迎へに東關城外に出向いたばかりであるといふ。吾々は途中で行き違つたのであらう、そこで一先づ引き返へす事とし、電話で本院に賴んで置いた藥品を其處で受け取つた。診療所に歸つて暫くすると、前記の二人は汗をふき〳〵訪ねて來られた。

濰縣…芝罘間自動車道路

濰縣は人口二十餘萬、膠濟鐵路沿線で最も繁華な城市である。城壁は二つに別れてゐて、その間を白狼河といふ河が流れてゐる。狹い河原に雜然と市がたつてゐた。

商業の中心地であり、物產の集散地として有名ではあるが、殘念な事には、日本人は城內に居住する事を許されない。その商埠地居住權も、早晚失ふやうな事になるかも知れぬ。市內には多數の醫院があり、洋式の相當に

進步した醫院も度々見受けた。中でも城外二三町離れた地點に、アメリカ人の經營になる大きな外科病院があり、レントゲン器械の設備まであつて、大概の手術は行はれるさうである。ビルディング式の高壯な藥房も數軒あり、整然と並べられた近代藥品の中に、三共とか武田等のレッテルを多數見出したときは、まことに心强い限りであつた。

夜、吾々は二週間振りに電燈の光に接して子供の樣に喜んだものである。赤や靑のネオンの光も、まことに意外なものであつた。

當地で開業してゐる鄭君といふ醫師が、夕刻診療所に班長を訪ねて來た。鄭君は臺灣に國籍を置く日本人會員で、二年前當地に開業以來、着々發展を續けてゐる。班長とは度々面識の間柄なのでわざ〳〵訪ねて來たものである。

五月二十四日　（日）　晴

當地で診療を行ふにあたり、吾々は餘り大した期待を持ち得なかつたと云ふのは、前にも述べた通り此の土地は相當の大都會であり、進步した醫師も多數開業してゐることであるから、極少數の限られた藥劑と設備しか持ち合はさぬ巡廻診療班を賴つて來る者は極僅少であるに違ひないと考へたからである。所が此の豫想は見事にはづれて、午前八時に診療を開始してみると、誠に押すな〳〵の盛況振りであつた。正午近くには、携行して行つた藥袋二千枚は遂に品切れとなり、藥は藥包紙に包んだまゝで與へなければならなくなつた。午後に及んでも午前同樣の盛況で、中に邦人數名の姿も見えた。總計實に四百四十六名。中、男百五十四名、女二百九十二名。

夕刻日本人會長掛谷氏から、ビール、サイダーの寄贈を受けた。午後六時例によつて診療所内に、縣長代理第一科長、警察班長、教育館長等を招待するべく通知したが、何故か全部欠席との返答であつた。

五月二十五日　（月）　雨後晴

昨夜から降りはじめた雨は今朝明け方になつて降り止んだ。定刻午前八時に診療開始。前日同樣混雜を極めた。午後一時頃濟南醫院へ出張歸り途の長澤事務長が、途中下車して診療所に立ち寄つた。本日の患者總數四百八十八名。中、男二百三十四名、女二百五十四名。

午後六時、驛前南信洋行で日本人會々員主催の歡迎會に出席する。

歸路當地某戲院で開演中の支那芝居に招待された。

五月二十六日　（火）　晴

二週間にわたる巡廻診療も無事終了し、今日は愈々青島へ歸還の日である。一行の面上にも、さすがに明るい色が浮ぶ。僅々二週間の旅ではあつたが、僻地の單調な生活に慣らされると、實に一ヶ月以上も經過したかの樣に思はれるのである。出發前、例によつて縣政府訪問、次いで日本人會に立ち寄つて滯在中の好意を謝す。午後零時四十分濰縣驛を離れる。驛頭には日本人會の主な人々が五六名見送りに來てゐた。

列車が青島に近づいた頃、數名の新聞記者が乘り込んで來て、吾々の

五月二十六日青島驛にて

感想を書き取つて行つた。午後六時青島驛着。院長以下職員全部、それに多數の職員家族の方々に迎へられてプラットホームに降りると、安着の喜びにしばし歡聲の渦がまき起つた。列車を背景に紀念撮影をすませた一行は一先づ本院に引き上げ、表玄關前で院長から懇篤な慰勞の辭を受け、副院長の發聲で巡廻診療班萬歳を三唱し、こゝに無事解散する事となつた。

八、實施成績

各診療地に於て取扱ひたる患者の病類別、男女別、並びに年齢別の統計は次の通りである。

（一）病類別患者表（第一回巡廻診療）

病類別＼男女別	即墨 男	即墨 女	即墨 計	平度 男	平度 女	平度 計	沙河 男	沙河 女	沙河 計	昌邑 男	昌邑 女	昌邑 計	濰縣 男	濰縣 女	濰縣 計	各地合計 男	各地合計 女	各地合計 計
結核疾患 呼吸器	一〇	八	一八	一〇	一五	二五	三	四	七	一三	三五	四八	一八	一三	三一	五四	七五	一二九
結核疾患 消化器	三	一	四	三	三	六	三	—	三	三	五	八	三	七	一〇	一六	一六	三二
結核疾患 骨	七	一	八	八		一三	二	三	五	一二	一二	二四	一三	一〇	二三	二八	三一	六九
全身疾患	六	二	八	四	五	九	三	一	四	九	一〇	一九	五	八	一三	二七	三六	六三
神經疾患	三	七	一九	一三	二八	四〇	三	一〇	二三	四一	五八	九九	二九	四三	七二	一二六	一四六	二七二

(二) 男女別患者統計表（第一回巡廻診療）

診療地	診療日	男 第一日	男 第二日	男 計	女 第一日	女 第二日	女 計	合計 第一日	合計 第二日	合計 計
呼吸器疾患		九	四	一三	一三	三	一六	二二	七	二八
血行器疾患		四	一	五	一三	二	一五	一五	三	一八
營養器疾患		三八	一〇	四八	一四	二	一六	五二	一二	六四
泌尿生殖器疾患		一五	一	一五	一五	一	一六	三〇	一	三一
產科疾患		一	三〇	三〇	一	四七	四八	一	七七	八
性病		一五	一	一五	二三	五	二八	三	一〇	一三
眼疾患		三四	三三	六七	一三	九〇	一〇三	四七	一〇四	一四七
耳鼻疾患		一八	九	二七	二一	三〇	五一	一〇	一八	二八
皮膚疾患		二五	一三	三八	二八	二七	五五	一四	一五	二九
運動器疾患		三五	一二	四七	一四	三九	五五	一七	二五	四二
外傷及不慮		八	二	一〇	七	六	一三	一五	一九	三四
其他疾患		二五	三	二八	四	一八	二二	二九	二一	五〇
合計		二七四	一三六	四一〇	三四〇	四〇九	六一三	一四四	一九六	三四〇
卽墨		八九	一八五	二七四	二八	一三六	一六〇	二二	一六	三八
平度		一〇六	九八	二〇四	二八一	一二八	四〇九	一二八	一二一	三三七
沙河		五三	九一	一四四	七五	一二一	一九六	一三	一九	三三
昌邑		二一〇	一五九	三六九	四〇九	二	六九九	二九二	二一	四八八
濰縣		一五四	二三四	三八八	二九二	二五四	八九六	一九九	一七〇	四八四
計		六一二	七六七	一、三七九	一、〇九五	八九一	一、九八六	一、〇六八	三九八	一、七〇七
卽墨		二七四	一八五	二七四	二八	一三六	一六〇	二二七	二八三	四一〇
平度		一〇六	九八	二〇四	二八一	一二八	四〇九	三八七	二二六	六一三
沙河		五三	九一	一四四	七五	一二一	一九六	一二八	二一二	三四〇
昌邑		二一〇	一五九	三六九	四〇九	二	六九九	六一九	四四九	一、〇六八
濰縣		一五四	二三四	三八八	二九二	二五四	五四六	四四六	四八八	九三四
計		六一二	七六七	一、三七九	一、〇九五	八九一	一、九八六	一、七〇七	一、六五八	三、三六五

(三) 年齡別患者表統計表（第一回巡廻診療）

診療地 ＼ 年齡	一—一〇	一一—二〇	二一—三〇	三一—四〇	四一—五〇	五一—六〇	六一—七〇	七一—八〇	八一—九〇	合計
卽墨	二八	三七	六三	一一一	八三	五五	二八	五		四一〇
平度	四九	七八	一〇四	一四二	一二一	七三	三七	八	一	六一三
沙河	二九	二一	五八	九一	八六	三一	二一	三		三四〇
昌邑	七八	一八三	一〇三	二五九	二一九	一五五	五九	九	三	一、〇六八
濰縣	七七	九八	一一〇	二二三	一九九	一七〇	五二	五		九三四
合計	二六一	四一七	四三八	八二六	七〇八	四八四	一九七	三〇	四	三、三六五

以上の統計に見る如く、患者總數三千名を突破したのは豫想以上の好成績である。各地方により患者數にかなりの懸隔はあるが、これはその土地の人口の多寡に由來することは勿論だが、その他、天候の良否とか宣傳の方法、それから又住民の氣風の如何によつて、相當の變動を見たことと思はれる。例へば、第四診療地の昌邑の如き、人口は比較的少數なるにも拘らず、縣當局の適當にして且熱心なる宣傳の結果、連日患者の雲集を見、二日間に千名を突破し最も優秀な成績を收める事が出來たのである。前掲の患者統計表中、病類別統計は、同仁會醫院の年報に使用さるゝ病類別表に從つて記載する事とした。極めて僅少の時間に、數百人の患者に接する場合、各科にわたり詳細なる統計を作製する事は到底不可能と思はれたからである。

九、經費出納事項

(一) 收入

今回の巡廻診療は實費徴收を主眼とし施療を併用する事に豫め定められたのであるが、實施に當り適當に臨機の處置を採るべく院長より內命があつた。先づ第一診療地の即墨に診療を開始するに當つて、實費料金を徴收する手筈を定めた所が、切角蝟集した患者の大部分は診療を受けずに歸らんとする形勢を示したのである。これは蓋し止むを得ぬことかも知れぬ。患者の大多數は、平素醫藥の資に缺乏せる貧農階級の人々ばかりである。此の群集の中から、料金支拂能力を有つか有たぬかと云ふことを公平に區別する事は殆ど不可能であつて、强いて實費徴收主義を實行したならば本事業は失敗に歸するやも知れぬと考へたので、斷然施療主義を採る事にした。從

つて他の診療地に於ても同樣の方針をとつて收入は皆無である。

(二) 支出

診療に要する藥品、衛生材料、並に事務用雜品等は、一切在庫品を携行し、現地調達はなるべく行はぬ事とした。班員の旅費其の他の支出は、歸還後精算の上支給することとし、旅行中は大金を携行せぬ方針とした。たゞ自動車借入料、汽車賃、謝禮接待費等に充當すべく、銀五百元を携行した。

旅行中の重なる經費は、自動車借入料と、各診療地に於ける中國官憲招待費とである。支出額の明細は次の通りで、之を取扱つた患者に割當てると、一人當り三角五分となる。

第一回巡廻診療諸經費

科目	支出額 金	支出額 銀	支出額 計	
俸給諸給		一、二五八 五七	一、二五八 五七	
旅費		一、〇一三 五七	一、〇一三 五七	班員宣傳員旅費
賞與		二四五 〇〇	二四五 〇〇	賞與
治療費				
藥劑材料費	一〇七 一一	三一二	一一〇二三	治療用藥劑

需用費	一七二〇	一三一〇一	一四八二一
備品費	三五〇		三五〇
消耗品費	一三七〇		一三七〇
通信運搬費		一四二五	一四二五
雜費		一一六七六	一一六七六
合計	一二四三一	一、三九二七〇	一、五一七〇一

十、診療後の感想並びに將來の巡廻診療に對する希望

（一）巡廻地滞在日數に就いて

巡廻診療の性質上、一地方で長期にわたる診療を施すことは勿論不可能には違ひないが、今回實施した如く一地方に於て僅か二日間づゝの診療では聊か燒石に水の感がないでもなかつた。てはどの位の日數が必要かと云へば勿論長ければ長い程よいのであるが、せめて一地方に四日間の期日は欲しいものである。即ち今回の巡廻診療のやうに、總日數十五日といふ場合には診療地を三ケ所に限定する。さうすれば丁度地方の診療日數は四日間づゝといふ事になり、四日間の期日があれば診療を受ける患者にとつて好都合であるばかりでなく、診療班としても非常に仕事がやりよい。今回の如く、五ケ所を轉々として巡廻するとなると、多數の荷物の梱包とか、バスの

交渉とか、その他種々の雜務に絶えず追はれ勝ちとなり、落ち付いて診療に從事する餘裕が與へられなくなる。のみならず、五地方を廻れば、總日數十五日の間、實際に診療を行ふのは十日間で、五日間は全然診療に關係がなくなる。これを三ケ所とすれば、十二日間は、完全な診療日數であり、一日間の利益が得られることになる。滞在地で相當の餘裕があれば、その地方の衛生狀態の視察とか、民情の觀察とかいふものも充分に出來得るのである。

（二）宣傳の方法に就いて。

今回は第一回の事業であり、充分な宣傳を行ふ事の出來なかつた事は遺憾に思ふ次第である。ポスター並びに診療券は、診療班の出發前、各診療地の下檢分を行つた長澤事務長が多數携行し、各地當局にその配布方を依頼したのであつたが、或地方では、配布するのが面倒なのか、それとも忘れてしまつたのか、一向ポスターの姿を見受けなかつた。今後は診療班自身も、ビラやポスターを携行し現地に到着と同時に配布してはどうかと思ふ。吾々は診療中に不圖、藥袋の裏面が全然白紙なのに氣が付いたので、次回からはこの裏面にも種々の宣傳文を記入することを提言した。又地方によつては、日刊或は週刊の新聞紙が發行されてゐるところもあるので、それに宣傳文を記載して貰ふ事も一つの方法である。今回は即墨と維縣とで、たまたま診療所を訪れた新聞記者（中國人）を歡迎し、種々懇談したところ、翌日の新聞紙には、大々的に記事が載つてゐるのを見た。

（三）實費診療の可否に就いて。

巡廻診療は實費診療を建前とするやうにといふ命であつたが、吾々はすべて施療にすべきものと考へる。今回

診療の經驗によると、患者は殆んど大部分が貧農であつて、若し此の人々から、たとへ少額なりとも診療費を徴收するとなれば、患者は恐らく、立ちどころに激減するに違ひない。若し又、僅少なりとも料金を徴收した場合土地の官憲、或は住民などから、同仁會病院は遂に觸手をのばして奥地に迄進出せりといふ風に、誤認されても仕方ないと思ふ。

吾々は出發前、此の問題に就いて色々と協議をした結果、結局は患者の中で幾分なりとも資力の有る者からは實費を徴收し、資力なしと認めた者は施療とすべしと云ふに意見が一致した。が實際上一時に多數の患者が殺倒した場合、吾々の樣な土地の事情に全く通じない者が、どれもこれも一樣な身なりをした人々の中から、貧富の程度を區別するなどは全く不可能のことであつた。吾々は大體以上の理由のもとに、診療第一日から、斷乎として全部施療といふ方針に定めたのである。

(四) 巡廻地に於ける有力者を招待、懇談すること。

診療地で其の土地の有力者、例へば、縣廳所在地ならば縣長、或は公安局長、警察隊長、商務總會長などを招待し、色々と懇談することは、前にも述べた通り非常に有意義であつたと思はれる。多少の費用は止むを得ぬ事であるが、今後もなるべく實行して見ては如何かと思ふ。

(五) 診療班の輸送並びに宿泊に就いて。

今回の巡廻診療で、吾人の最も手古摺つた事は各地に於ける乘合自動車の借入に就いてであつた。自動車專用道路はどうやら出來上つてはゐても、肝心の自動車が僻地には極少數であり、時には思ひがけない事故の發生の

ために、豫定通りに借り入れる事の出來なかつた場合が度々あつた。此の乘合自動車なるものも頗る古物ばかりで、動搖は劇しく、雨天の場合は實に危險であり、身體の疲勞すること一と通りではなかつた。多額の費用を惜しまず、わざ〳〵巡廻診療を決行した同仁會醫院として、この貧弱なバスばかりに頼つて間誤つくのは地方民に對して、體面上面白くないと思ふ。今後毎年巡廻診療を繼續することになれば、是非病院專用の大型乘合自動車を購入する必要があると思ふ。

次に班員の宿泊休養の問題であるが、今回はすべて宿泊所として診療所を利用した。といふのは、僻地の所謂旅館なるものは名ばかりで、誠にむさ苦しい建物ばかりであるし、班員全部が一軒の家に泊る事も出來ず、又診療所の物品監督といふ事もあり、止むを得ず、窮屈ではあつたが診療所内に折たゝみ寢臺を並べて寢ることゝした。此の折たゝみ式寢臺を携行した爲に、吾々は、ともかくも休息をとることが出來たのであつた。

山東省東部地方巡廻診療報告（第二回）

一、序　言

第一回巡廻診療は山東省東北部地方に實施したれば、第二回は山東省南部地方に實施する豫定なりしも、不穩なる時局を考慮し膠濟鐵路沿線にて行ふことゝせり。

二、巡・廻　地　の　選　定

最初は膠縣（膠州）、高密、諸城、安邱、坊子、昌樂、益都（青州）の七ヶ所を豫選し、各市邑の人口、衛生狀態交通狀況等を調査したるが、上述の理由にて鐵路より遠隔の地を省き左記四ヶ所に決定せり。

イ、膠縣……青島より七三、一公里（汽車にて約二時間）
ロ、高密……膠縣より二五、七七公里（汽車にて約三十五分）
ハ、坊子……高密より七〇、九六公里（汽車にて約二時間）
ニ、益都……坊子より七〇、五五公里（汽車にて約二時間）

三、診　療　實　施　日　程

診療班の出發は最初十月上旬の豫定なりしが時局の爲延期し、十一月四日より十一月十九日迄十六日間左記の通り診療を實施することに變更せり。

十一月四日…青島出發膠縣に至る。
十一月五日
同　六日　膠縣にて診療
同　七日
十一月八日…膠縣出發高密に至る。
同　九日　高密にて診療
同　十日
十一月十一日…高密出發坊子に至る。
同　十二日　坊子にて診療
同　十三日
同　十四日
十一月十五日…坊子出發益都に至る。
同　十六日　益都にて診療
同　十七日
同　十八日

十一月十九日…益都出發青島に歸る。

四、診療班の編成と職務分擔

第二回巡廻診療班の編成は九月下旬完了、夫々內命を與へたるが、出發延期中、班員に病者を生じ一部變更を見、十月下旬左記の如く決定せり。

班長	醫員	新宮三郎
班員	醫員	邱壽亭
同	調劑員	設樂三男
同	事務員	田沼與助
同	看護婦	齋藤キヨ
同	同	張吉慶
同	同	隋金鑾
同	傭人	周忠世

更に左記の通り職務分擔を定めたり。

交涉係	新宮班長	邱醫員
材料係	設樂調劑員	田沼事務員

宣傳係　邱醫員
會計係　新宮班長　田沼事務員
記錄係　新居班長　田沼事務員

五、準備作業

(一) 豫定表の製作

診療地に於ける行動の圓滑を期する爲め左の通り豫定表を作製せり。

十一月四日（水曜日）午前八時半本院玄關前集合、午前九時半病院出發、午前十時十分列車にて午後〇時二十四分膠縣到着、直ちに縣政府、公安局を訪問、診療所開設。

十一月五日（木曜日）診療
同　六日（金曜日）同
同　七日（土曜日）同
十一月八日（日曜日）午後〇時二十七分膠縣發列車にて午後一時五分高密到着、縣政府、公安局を訪問、診療所開設。
十一月九日（月曜日）診療
同　十日（火曜日）同

十一月十一日（水曜日）午前十時十六分列車にて出發、午後〇時四分坊子到着、日本總領事館分館、日本人會、商務總會、公安局を訪問、診療所開設。

十一月十二日（木曜日）診療
同　十三日（金曜日）同
同　十四日（土曜日）同
十一月十五日（日曜日）午後〇時十九分列車にて出發、午後二時十五分益都到着、日本人會、縣政府、公安局を訪問、診療所開設。

十一月十六日（月曜日）診療
同　十七日（火曜日）同
同　十八日（水曜日）同
十一月十九日（木曜日）午前十一時四十八分列車にて出發し午後六時三十分青島到着。

(二) 省政府へ交渉

在青島日本總領事館を經て、山東省政府へ第二回巡廻診療班派遣に付き便宜供與方を依頼す。

(三) 準備宣傳員の派遣

邱醫員、田沼事務員を今回の巡廻診療地たる膠縣、高密、坊子、益都に調査並に宣傳の爲め派遣することゝなり、兩人は十月二十九日青島を出發、十月三十一日歸院せり、其の報告に依れば『高密と坊子は豫定通りの實施可

能なるも、膠縣、益都は省政府の命令なき爲に實施不可能の狀態にあり』とのことなり、依つて青島總領事館に問合せたるに『更に山東省政府に交渉すべきを以て、豫定通り診療實施差支なし』との回答を得たるを以て、多少不安ながら豫定通り巡廻診療を行ふことゝせり。

六、携帶品目

(一) 醫療器具

イ、內科用

聽診器	三
休溫器	三
舌壓子	一〇
懷中電燈	三
腰椎穿刺器	一式
注射器 二cc	二
同 一〇cc	二
同 五〇cc	二
酒精燈	一
打診器	一
卷尺	一
指頭酒精消毒器	二
種痘用具	一式
注射器 一cc	二
同 五cc	二
同 二〇cc	三
血壓計	一
試驗管	五

浣腸器	二

ロ、外科用

外科刀	三
鋏	三
鋭匙	二
消息子	三
縫合針	一〇
ゴム驅血帶	一
尿道カテーテル	二

ハ、耳鼻科、眼科、齒科用

耳用捲綿子	一〇
額帶鏡	二
鼻鏡	三
有窓鼻鏡	一
鼻用消息子	二
耳用異物鈎	一
注射針	一〇
鑷子	五
止血鉗子	一〇
二雙鈎	二
持針器	三
縫合絲	三束
膿盆	二
喉頭捲綿子	三
耳鏡	二具
喉頭鏡	二
耳用消息子	一
後鼻鏡	一
歐氏管カテーテル	二

鼻茸絞斷器　一
洗眼罐　三
拔齒鉗子　二

二、藥局用具

桿秤　一
天秤（上血）　一
漏斗（小）　二
膏藥篦　二
乳鉢　三

（二）衛生材料

ガーゼ　二二反
卷軸帶（四裂）　二〇卷
同（五裂）　四三卷
同（六裂）　一二卷
亞鉛華絆創膏　二罐

（三）藥劑

開瞼器　一
受水器　二

藥匙　二
內服用袋　五〇〇〇枚
藥包パラフイン紙（千枚入）　一〇包
點眼瓶　三〇〇個

脫脂綿　三磅
亞麻仁油紙（百枚入）　一函
三角巾　六枚
昇汞ガーゼ　二〇反
綿紗卷軸帶　三〇〇卷

イ、內用藥

マーゲン散　二、二五〇瓦
燐古散　二五〇瓦
稀鹽酸　五〇〇瓦
サントニン散　四五〇瓦
エバニン末　四〇〇瓦
カルモチン　二五瓦
安那加　七〇瓦
吐根浸錠　三、〇〇〇個
鹽規　一八オンス
撒曹錠　五〇〇個
タンニン酸錠　一〇〇個
ズルフオナール錠　二〇〇個
ザロール錠　一〇〇個
甘汞錠　三五〇個
乳糖　一磅

ラキサトール錠　二五〇個
健胃錠　三〇〇〇個
ヒマシ油　一磅
セダロン錠　四〇〇個
次硝酸蒼鉛錠　五〇〇個
アンチピリン錠　九三〇個
鹽規　二〇オンス
チウレチン　五〇瓦
ロートエキス散　一〇〇瓦
チアスターゼ　七五瓦
エビオス　一〇〇瓦
フエナセチン　一〇〇瓦
重曹　三磅
アスピリン　二磅
タンナルビン　一磅

ミグレニン　一磅
ロ、外用藥
弱ルゴール液　二〇〇瓦
硫香水　三〇〇〇瓦
チンク油　一磅
沃丁　一磅
リゾール　一磅
參硫膏　一磅
硼酸末　三磅
昇汞錠　一〇〇〇個
ハ、注射藥
ヴイタカンフア　一〇個
カンフル液　四八個
バグノン　五個
ナルコポン　五個
マグセリン　五個

酒精　五磅
亞鉛散　一磅
カルメント　二磅
ボールチユリザルベ　四磅
ヨードフオルム　一磅
石油ベンヂン　三磅
亞鉛華軟膏　一〇磅

鹽酸エメチン　五個
エルスチン　一〇個
硫酸アトロピン　五個
オリザニン液　一〇個
コクチゲン　一個

(四) 雜用品

茶褐毛布　二四
作業衣　一二
懷中電燈用電池　三
西洋刀　一
噴霧器　一
メモ　四冊
院外處方箋　十枚
雜用鋏　一
物差　一
吸取器　一
鉛筆　五
封筒　五〇
ペン先　二〇
ノート　二
蠟燭　一打

洗面器　四
石鹼入　三
石鹼　一打
石油焜爐　一
半紙罫紙　二〇〇枚
タオル　一打
算盤　一
紙挾　二
栓抜　二
藥罐　二
色鉛筆　三
ペン軸　三
復寫紙　一打
不易糊　三
蝿取粉　一箱

燐寸	一函	縫針	五
止飯	一箱	木綿絲	二束
國旗	一	旗（赤十字）	二
横班旗	二	木札	一
鍋	二	朱肉	一
小刀	一	俎	一
庖丁	一	小皿	八
飯茶椀	一〇	金錢出納簿	一
水筒	二	コップ	八
割箸	一包	名刺	一五〇
茶盆	一	同仁會診療班袖章	八
宣傳ビラ	八〇〇〇枚	免費治療券	二〇〇〇枚

七、巡廻診療概況

巡廻診療は豫定表に從ひ實施する筈なりしも、膠縣にては山東省政府より通知なしとの理由にて最初の一日は遂に診療を行ふことを得ず、其後も常に不安の念を取去ること能はざりしが、其他の各地は平穏にして豫定の通

り診療を行ふ事を得たり。診療地は鐵道沿線なるも、各驛より市邑迄は何れも一里餘の隔りありて、荷物の運送並に運輸に多大の勞力を要したり。

診療日記

十一月四日（水）晴天

午前八時半、班員幷に職員全部本館玄關前に集合紀念撮影をなし、院長より諸般の訓示注意等あり班長之に答へ、全職員の盛大なる歡送裡に出發す、時に午前九時三十分。青島驛十時十分發列車に乘車し班員一同勇躍して第一診療地の膠縣（膠州）に向ふ。

午後〇時二十四分豫定通り膠縣驛に到着、夫より人力車幌馬車を傭ひて城内進德街（縣廳附近）太和旅社に到り携行品を室内に納め、直ちに班員一同縣長に敬意を表すべく縣廳を訪問したるに、縣長は管内巡視のため出張不在なりと云ふ、第一課長に面會を求めたるに課長は省政府より未だ何等の指示なき故面會するともせざるも同樣なりと傳達者（取次）への申付けなり。再三理由を述べて申込むも遂に面會せず、已を得ず旅社に引上げ一同歎息の外なく、診療は翌日に迫るも傳單の散布も出來ず梱包も解けず一同大に困惑中、公安局長の來訪あり（課長の指示に依るものならんか）。相當の好意を表示して吾等の要求を聞き、班の立場をも諒察するものゝ如くなるも、縣長の指示なくしては自分の權限にては如何とも致し難く甚だ遺憾なりと云ふ。縣長と局長との地位の懸隔は相當大にして、局長が如何に好意を持つとも施すに途なく、縣長歸り次第更に來訪すべしと約束して歸去せら

れたり。時に午後三時。一同協議の上省政府の意向を聞くため長途電話にて濟南總領事館橋本副領事に、當地に到着したるも立往生せる事情幷に省政府は何故に縣政府に指令せざるやを尋ねたるに、總領事館としては既に去る二日附公文にて依頼し、更に又電話を以て申込みある故、本日中には必ず指令あることゝ思ふ、本日は折惡しく省政府の首腦部全員黄河に出張し不在なる爲め、其事情の問合せも出來ず、若し本日中に指令なき場合は診療も一日延期しては如何、明日は必ず電話を以て指示する樣取計ふべしとの返答を得て一同先々安堵し、本夕中に指令なき場合は當地三日間の診療を二日に切詰め、爾後の日程を變更せず豫定の計畫通り實施することに取極め、縣長への指令到達を待ちつゝありしに、公安局長再び來訪、縣長も歸廳せず又省政府の指令も未着なりと云ふ、時に午後七時過ぎ、愈々明五日の診療は斷念して一同前途を案じつゝ寢に就く。當旅社には寢臺大小七ケ備付けあるも、不時の來客を顧慮して其全部を提供せず、從て寢臺不足にて班長と調劑員及齋藤張の兩看護婦夫々一個の寢臺に二人づゝ、他の三名は丸腰掛に板二枚を竝べて代用ベットとなし、支那布團一枚敷き携行の毛布を被り漸く夢を結びたり。

膠縣政府再三訪問す

十一月五日　（木）　晴天

午前七時半朝食後一同縣廳を訪問せしに縣長未だ歸廳せず、省政府よりも指示來らずと云ふ（管内巡視の縣長

が歸らぬ筈なしと思ふ）。第一課長に會見を迫るも前の如く之に應ぜず、更に轉じて程遠き公安局廳舍を尋ね刺を通ずれば、局長は快く會見して遺憾の意を表示せらる。されども、省政府の指示もなく縣長不在なる以上自分の力に於ては如何ともする能はず、縣長歸り次第自分より進言して長途電話を以て省政府の指示を仰ぎ、更に通報すると云ふ誠意振りに、吾等も滿足して旅社に引上げたり、其後數時間待てども何の音沙汰なく、吾等一同全く進退に窮し、更に合議を重ねて方針を決し、愈々翌六日（診療第二日に當る）は午前十一時を期して當地を引上げ高密に向つて出發する決意を局長に通告し、更に其旨を本院にも通報したり、時に午後三時。

午後七時半頃局長又來訪あり、未だ何等の指示もなく縣長も歸廳せずとて如何にも面目なげに辭去せられ、吾等一同も又己むを得ずとなし、心苦しき一日を空しく過ごし、心ならずも一同又板寢臺の上に巢を作り寢に就く。

膠縣診療所前にて

十一月六日　（金）　小雨

午前七時頃眠覺めたるも雨の降れるに心を落ち付け未だ寢床の内にありたるに、公安局より使者なりと云ふ知らせに、さあ指令が來たと邱醫員飛び起きて接見すれば、果して『本朝省政府より指令あり、本日より診療ありたし、施療券は公安局の手にて適宜配布する筈、長く御待たせて申譯なし』との詞。一同大喜びにて先づ朝食を濟まし、班員は二班に分れ折柄小雨の中を城の内

外に亘りて傳單を行人又は店内に配布し廻ること約二時間。旅社に歸れば、何れを見ても靴は勿論膝より下は殆んど泥にまみれ服はビショ〳〵にして、其儘にては任務の遂行も出來ずと服を着更へて來患を待つ。時既に九時半を過ぎて何分にも小雨は降り續く、道路は泥濘脛を沒する有樣、其の爲か但しは他に由緣ありや、診察所は極めて寂寞として班員一同も力拔けの感あり。幸に正午頃より雨も止み時折り日光を見るに至り、二時三時頃には例へ道路は惡くとも患者は相當あるべしと期待せしに案外振はず、四時過ぐる迄の來患は上表の如く僅に八十六名、苦心を重ねたる第一日の診療も之にて打ち切りたり。患者は概して中流以上の者にて、中には此後青島醫院にて徹底的に治療を受け度ければ證明せられたしと云ふ者數人あり吾々の使命も幾分は達したりと喜びたり。此日の朝より公安局の巡警二名當診療所の警備に當る。

十一月六日（土）晴天

	男	女	計
内科	一六	四	二〇
外科	六	六	一二
小兒科	六	〇	六
婦人科	〇	二	二
皮膚科	八	二	一〇
眼科	一六	一二	二八
耳鼻科	六	〇	六
齒科	二	〇	二
計	六〇	二六	八六

投藥數	内劑	外劑	計
	七〇	三〇	一〇〇

今日は天氣晴朗、道路もやゝ乾きたれど如何にも寒冷を感ずる日和なるが、五百枚の施療券と二千の宣傳文を配布しあることとて、來患を期待し早天より赤十字旗を揭げ、横幕や縱看板を立て、大に氣勢を揭げて診療所に

待受くるも、昨日と異る模樣なく、時折一人來り二人來り正午に及ぶも僅かに數十名にて、午後も又午前と同じく、此日の患者數は上表の如く僅か百四十名にして、惠まれざる膠縣診療の幕を閉ぢ。

	男	女	計
内科	一七	一五	三二
外科	一一	三	一四
小兒科	一四	六	二〇
婦人科	〇	〇	〇
皮膚科	二三	一三	二六
眼科	一三	一〇	二三
耳鼻科	一一	二	一三
齒科	二	〇	二
計	九一	四九	一四〇

投藥數	内劑	外劑	計
	一五三	六三	二一六

膠縣第二日（十一月七日）

膠縣は元は膠州と稱し海岸を距ること十五支里、青島が一漁村たりし時代は膠州灣唯一の港として繁盛を極めたりと云ふ、現在約一萬の戶數と五萬餘の人口を包容する相當の大市街にて醫院藥店の散在を見る。縣當局の助力と宣傳其宜しきを得れば、少くも七八百名の患者を見るべき筈なるに、僅々二百餘の患者を診療して當地を引上ぐることは、一同の深く遺憾とする處なり。

膠縣にて

十一月八日（日）晴天

芳ばしからぬ成績を膠縣に殘して午後〇時二十七分發列車にて一時十分第二の診療地高密驛に到着す、人力車及び大車を傭ひ班長先頭に班旗を飜し、五色の傳單を沿道に散布しつゝ縣城に向ふ。折柄の好日和に偶々當地の市日に當り、大門前の大石橋に到れば城壁に沿ふ窪地一帯は見渡す限り數萬の群集に埋まり、橋上は人力車の通行に苦しむ程にて、巡警數名の整理にて辛じて通過し縣廳前の豫定旅社に入り、直ちに縣長を訪問すれば、日曜日にて來客と共に公安局長を帯同して外出不在なりと云ふ。旅社に引返して赤十字旗を初め縱横の幕看板を掲げ、市日を幸ひと班員各數百枚づゝの傳單を携行、巡警數名に援護されつゝ群集中に宣傳をなしたり。

高密驛にて

午後四時半頃旅社に歸れば門前亦市をなして民衆集まり、氣早に診療を乞ふもの又は往診を申込むものもありて前景氣頗る盛んなり。日没後漸く旅裝を解かんとする時、縣長歸廳し八時頃旅社に來訪すると云ふ通知あり。夫れにては失禮なりと夕食を急がせ七時半頃一同縣廳を訪問せんとする途中に出會し、縣廳舍に導かれ茶菓の饗を受け鄭重なる謝意を表され、膠縣とは雲泥の差ある優遇振りに一同大に氣分を良くして退出したり。

高密縣政府

八時半頃縣長は公安局長を帯同して吾等の旅社に來訪せらる。當方も各自携行の食料品を提供して小宴を張り敬意を表すれば、縣長殊の外喜びて辭去せらる。夫れより約一時間總動員にて翌日診療の準備をなす。

此日は縣長並に公安局長等の特別なる優遇振りに加ふるに、數萬の群衆に宣傳良く行渡り、且つ當地は守備軍時代吾が青島病院の分院所在地たりし深き緣故もあり、城の内外を通して戸數六七千、人口約二萬と稱する市街なれば、明日は多數の來患を見、相當の好成績を擧げ得るものと大なる期待をかけつゝ寢に就く。殊に當旅社は開業早々にて設備新しく萬端の調度備はり警備員四名も出張し居りて誠に心地良く夢路に入ることを得たり。

高密

市場

十一月九日 （月） 晴天

氣溫低下して稍々寒さを覺ゆるも天氣快晴にして心地良く、班員一同も今日こそはと勇み立ちて早起し、大に馬力を懸けて診療準備を整へ居る内、午前七時頃新宮班長は往診を依頼され、巡警の護衛附にて往診す。朝食を急ぎ前夜縣長に聲明したる通り定刻一時間前には診療所を開き、木炭を焚

きて室内を温め來患を待つに、九時前既に三十餘名の來患を見、豫想通り朝より多忙を思はしめたり。定刻九時に到れば三々五々患者は集り來り、狹き患者控室は忽ち滿員の盛況を續け、此日の總患者數上表の如く實に四百名を突破したり。

午後四時半頃往診を求むるものあり邱醫員往診す。

午後六時より班員一同縣長の招待にて進德會内に催されたる盛宴に列席し、傅商務會長、張公安局長陪席にて歡待され、邱醫員の通譯に依り謝意を表して歡談數刻、八時過ぎ辭去、翌十日の診療に努力することを申合せ終日奮勵の疲れも忘れて寢床に入る。

十一月十日（火）曇天

本日も又、朝來患者陸續として來集し前日以上の大盛況を示し、正午過ぐるも尚患者滿員なり。急ぎ晝食を採り、更に診療を續くるに新患舊患入り混りて殺到し、醫員及調劑係は喫煙の寸暇もなき大盛況裡に、高密診療の幕を引く。本日の患者總數は五百六十四名、投藥劑數一、〇〇一劑に達す。患者は概して貧民にして此點も膠縣とは相反せり。以上の如く兩日に亘り多數の來患に加ふるに、相當の野次馬

	男	女	計
内科	六二	四一	一〇三
外科	四三	三二	七五
小兒科	三〇	六	三六
婦人科	〇	三	三
皮膚科	三六	四	四〇
眼科	七六	四三	一一九
耳鼻科	二六	一二	二八
齒科	五	七	一二
計	二七八	一四八	四二六
投藥數	内劑三四〇	外劑三七	計三七七

高密第二日（十一月十日）

	男	女	計
内科	五〇	九一	一四一
外科	五六	二〇	七六
小兒科	三二	一五	四七
婦人科	〇	一四	一四
皮膚科	三四	三〇	六四
眼科	九六	八五	一八一
耳鼻科	二二	五	二七
齒科	一一	三	一四
計	三〇一	二六三	五六四
投藥數	内劑四四九	外劑二三四	計六八三

も加り、大衆は常に場内に溢るゝに拘らず、些の混亂を來すことなく無事に診療を終了したるは、一に縣當局の措置宜しきを得たるに依ることゝ深く感謝する處なり。診療を終りて一同縣廳に至り前夜の約束通り紀念撮影をなし、縣長は新宮班長に紀念の書を贈らる。六時より縣長及公安局長商務會長を旅社に招待して晩餐會を催したるに、縣長も喜んで來會、宴酣にして、例に依り邱醫員の通譯にて吾等の使命を說明し日支協調を語らひ、最も有意義なる交歡の裡に散會。班員一同喜びに滿ちて高密最後の一日を終り、薄き布團に包まれて連日の疲勞も忘れて寢に就く。

十一月十一日（水）晴天

昨夕刻本院より長距離電話にて『坊子日本人會より明十一日は市日に相當し田舍より多數の農民集まるを機會に宣傳し置く故、傳單を至急送れと云ふ通知ありたるに付班員一名傳單を携行し先發しては如何』とのことなれば、周傭人に傳單を携行せしめ、午前〇時三十分發急行列車にて先發せしむ。

此朝は特に早起し總員にて荷造をし、午前八時半縣廳公安局を訪ねて出發の挨拶をなし、旅社より人力車を連

曹高密縣長より新宮班長に贈られたる書

高密縣政府前にて記念寫眞

齋藤看護婦
邱　醫　員
設樂調劑員
田沼事務員
傳商務會長
曹　縣　長
新宮班長
張公安局長
隋看護婦
張看護婦

ねて高密驛に到り十時十六分發列車に乘車す。驛ホームには縣長、公安局長、商務會長等一里の行程も厭はず態々吾等を見送られ、一同も大に恐縮して謝意を表したり。

十二時四分列車は坊子車站に入る、驛には川鍋警察署長、中澤部長及平瀬日本人會副會長、外數名の出迎あり、衛生材料其他の荷物を日本人會の人々に委托し、平瀬氏及中澤部長に導かれ一と先浪花旅館に入り晝食をなす。此際當班の到着を待ち居れりと云ふ川原某の小兒を班長診察して處方箋を交付す。更に案内せられ領事館分館に到り土屋主任其他に挨拶、此處にても邱醫員は主任の耳疾を、班長も主任子息の診察をなし、未だ挨拶廻はりの濟まぬ内に早くも日本人患者續出の感あり。公安局商務會と挨拶廻りして最後に定められたる診療所を見る。初めは日本人會の階下と定められたるも、其の後領事館側の提案にて商務會に要求して提供せしめたりと云ふ第四馬路の大樓（空家）にて、既に日本人會と傳單に印刷したるものを訂正し、今日の市日を機會に適當に宣傳し置きたりと云ふ、之にて吾等の手數も省け機宜を得たる宣傳振りは感謝に堪へざる處なり。

十一月十二日　（木）　晴強風

朝來稀に見る強風にて砂塵を吹上げ殆んど咫尺を辨ぜざる程なり。さりとて第一診療日なれば豫定時刻迄には患者の有無に拘らず準備し置く必要ありとて相勵まして早起し、班長は約束に依り土屋主任を往診し、更に日本人會の患者八名を診療し、他の班員は口に『マスク』を掛けて七八丁を距る診療所に至り急ぎ準備をなす。幸に日本人會より『ストーブ』を据付けられて寒さを感ぜず、只此砂塵にては患者も皆無ならんと『ストーブ』を取卷き雑談中、一人來り二人來りポツ〳〵來患の數を増し、巡警四名も派遣せられて所内は賑ひ來り、十二時過ぐ

る頃には風も幾分衰へ患者の數も從て多きを加へ、日本人患者も二、三名來りて、四時締切時限には日本人十二名、中國人二百十名を診療し、意外にも淋しき第一日を終る。尤も當地には鐵道病院ありて殆んど實費に近き一劑十仙と云ふ輕費診療をなしても一日平均三十名に達することなしと云ふことなれば、吾が診療班が二百名以上を診療したることは大成功にして、吾が青島醫院の名聲高きと附近の村落より來たる患者の多數ありし爲めならんとは當地日本人側の聲なり。

坊子第一日（十一月十二日）

		男	女	計
	内科	三〇	四四	七四
	外科	一一	一〇	二一
	小兒科	一二	八	二〇
	婦人科	〇	七	七
	皮膚科	一一	六	一七
	眼科	二六	二九	五五
	耳鼻科	一一	一一	二二
	齒科	一	五	六
投藥數	計	一〇二	一二〇	二二二
	内劑	二四六		
	外劑	一七		
	計	二六三		

十一月十三日（金）晴天風稍強し

本日も班長は領事館及び日本人會の患者を診療し、他の班員は定刻診療所に詰めて來患を待つ。九時半頃より相當の來患あるも高密の比にあらずして物足らぬ感あり、定刻四時の締切にて患者二百七十一名內男一三三、女一三八、外に日本人患者は五名。只氣忙はしき思のみにして寂寞の內に第二日も終る。

午後五時半より日本人會に於て歡迎晩餐會を催され班員一同招待され出席す、席上には土屋主任、川鍋署長、中澤部長及び平瀨副會長、菅谷郷軍會長其他數名にて盛宴、午後九時半頃辭して宿舍に歸る。

十一月十四日（土）薄曇

午前八時より醫員看護婦總員にて坊子日本人小學校生徒三十二名の健康診斷をなす、終つて班長は日本人會の患者を診察し、定刻九時より診療を開始す。當日も亦市日にして多數の農民集まるを以て、午後の診療は相當多忙を極むることゝ期待せしも案外振はず、中國人の患者合計三百九十七名、男一八九、女二〇八、日本人患者七十六名なり。當地に於ける三日間の總計患者九百七十一名、劑數一、一二四劑にして期待したる坊子の診療も平凡に終了を告げたり。引續き總掛りにて梱包をなし明朝出發の準備をなす。

午後六時より當地各界より寄せられたる厚意に酬ゆるため日本人會樓上を借りて馬公安局長、李商務會長、土屋主任、川鍋署長、平瀨副會長、菅谷郷軍會長等數名を招待して晩餐會を催し、歡談を盡し敬意を表して、八時半頃散會。

坊子第二日（十一月十三日）

		男	女	計
	内科	四一	三七	七八
	外科	二五	一三	三八
	小兒科	八	五	一三
	婦人科	〇	一三	一三
	皮膚科	三〇	一四	四四
	眼科	二二	三八	六〇
	耳鼻科	七	一四	二一
	齒科	三	六	九
投藥數	計	一三六	一四〇	二七六
	内劑	二九二		
	外劑	二九		
	計	三二一		

十一月十五日（日）晴天

益都（青州）に於ける縣當局の支援の有無も疑はしく且つ宣傳の都合上、午前七時三十分坊子發列車に搭乘すべく前夜中に萬端の準備を調へ各分擔を打合せ、發車時刻三十分

前車站に集まる。驛には土屋、川鍋、平瀬、菅谷の諸氏及江間校長夫妻其他七八名來りて見送られたり。班員一同は益都の診療に膠縣の如き支障なからんことを祈念しつゝ益都驛に達す。驛頭には橋本誠三氏及田中日本人會長外二名の出迎あり、班員及荷物共人力車十臺を連ね、大梱包は鈴木絲廠出張所より提供の一輪車に積み、田中會長の案内にて沿道に宣傳ビラを撒布しつゝ縣城に向ふ。先づ下調査に於て定めたる中山街震東客棧に入り、携行品を卸して直ちに縣廳を訪問せしも、日曜のため縣長は不在にて第一科長及公安局長に會見して到着の挨拶をなす、省政府より指示ありたる趣にて快く迎へられ一同安堵の思をなす。田中會長と別れ市内の各所に宣傳ビラを撒布し廻はりて診療所に引上げたるは午後一時半頃なり。夕刻迄には相當時間もあれば近傍の名勝雲門山に登ることゝし人力車を傭ひ入れ巡警三名に護衛されて雲門山の景勝を探り、宿所に歸りたるは五時を過ぐること二十分、其間に周傭人が大體の梱包を解き看板も掲げ置きたれば、夕食後電燈の下に診療室を整頓し、各自疲れを癒すべく南京虫の來襲防備をなし、アンペラ敷の古寢臺に薄汚たなき支那布團を伸べて毛布を被り寢に就く。

		男	女	計
内科		四四	六三	一〇七
外科		四二	二三	六五
小兒科		四〇	四九	八九
婦人科		〇	一五	一五
皮膚科		二六	二六	五二
眼科		三三	三〇	六三
耳鼻科		四一	三二	七三
齒科		五	四	九
計	投藥數	内劑四一三	外劑一四七	計 五六〇
		二三一	**二四二**	**四七三**

十一月十六日（月）晴天

當地は膠縣よりも人家稠密にして現在の人口約五萬人と云ふ、三千餘年來の古都にして名勝舊蹟も多く市内には大なる綢緞舖及洋雜貨店散在し各商舖も軒を竝べ商業頗る盛なるが如し。邦人及縣當局の語る處に依れば公安局に於て既に施療券を各方面に配付しありて城内は大抵當班の到着を承知し居ると云ふ。邱醫員は當地に母校もあり舊友も多く大喜びにて、一日五百名以上を突破するならんと語り、一同も亦朝來患者の殺到を豫想せしが、案外僅少にして第一日の診療は來患總數百二十九名、内男八二、女四七、日本人患者二名、劑數百五十四、淋しき診療を終る。

此日午前十一時頃意外にも縣長單獨にて診療所を來訪せられ午後三時頃公安局長も來所敬意を表せられたり。

十一月十七日（火）曇天

昨日に比べて稍々寒冷を覺ゆるも、今日こそはと一同手具脛引きて來患を待つも更に來患の模樣なく、何等前日と異りたる處なし、患者合計百六十五名、内男九三、女七二、日本人患者二名、劑數百六十七なりき。

		男	女	計
内科		二一	一四	三五
外科		七	一二	一九
小兒科		一〇	五	一三
婦人科		〇	一	一
皮膚科		一七	九	二六
眼科		一三	八	二一
耳鼻科		一二	〇	一二
齒科		二	〇	二
計	投藥數	内劑一〇七	外劑四七	計 一五四
		八二	**四九**	**一二九**

連日の期待外れに一同大に悲觀し居るも、當地は附近の部落に宣傳の機會なく且つ市内は商工業盛なるため富裕者も多きが如く、患者中には診療藥價は幾何かと申出づるものもありて或は施療を受くることを潔しとせざる爲なるか、將た省立中學も數校ある位の比較的文化も進み居る土地とて大衆に時局の反映せるに因るものか、其邊明かならず。

午後七時頃縣長來訪、十六七兩日の患者數を尋ね且つ當地の古蹟產業物產等各方面に涉り長時間交談、自分の寫眞に署名して新宮班長に贈與せられたり。

十一月十八日（水）晴天

本日も同樣寂寞たる診療ならんと定刻に遲れて力なく診療所に出づれば患者の影もなし、餘儀なく火鉢を圍み待つこと久しく、十時頃より漸く二、三の患者ありしが、其後は意外にも增加し來り、十一時過には控室も滿員の狀況となり、一同大に元氣付きて兩日の不成績を補はんと更に馬力を掛けて診療中、田中日本人會長の案内にて偶々當地巡視に來たりし張店の副領事一行二名の來訪あり此盛況を視察せらる。其後も引續き來患あり午前中に二百餘名を算す。

益都第二日（十一月十七日）

	男	女	計
内科	一九	一九	三八
外科	一七	一二	二九
小兒科	六	四	一〇
婦人科	〇	三	三
皮膚科	一九	一一	三〇
眼科	二四	一七	四一
耳鼻科	七	四	一一
齒科	一	四	五
計	**九三**	**七四**	**一六七**
投藥數	内劑一二一	外劑四六	計一六七

午後四時の締切時に於て來患總數三百一名、内男一七九、女一二二、劑數三八六に達し、之にて當班の診療日程も首尾克く完了したり。午後五時聊か謝意を表する爲縣長、公安局長、日本人會長及び副領事一行等を診療所附近の慶祥樓に招待したるに皆快く出席せられ、種々懇談を重ね頗る有意義に八時過ぎ散會せり。續いて班員各自は歸還の準備をなし、明日の歸青を樂しみに最終の一夜を高粱ベッドの上に横へたり。

益都第三日（十一月十八日）

	男	女	計
内科	四〇	四五	八五
外科	一六	九	二五
小兒科	一六	七	二三
婦人科	〇	七	七
皮膚科	二七	一九	四六
眼科	五八	二七	八五
耳鼻科	二〇	八	二八
齒科	二	〇	二
計	**一七九**	**一二二**	**三〇一**
投藥數	内劑二八六	外劑一〇〇	計三八六

十一月十九日（木）晴天

今日は天も吾等の業務完了を祝福するものゝ如く、晴朗にして暖かなり。先づ市内の見物旁々土產物を調へ、更に縣當局を訪問して歸還挨拶をなし、後人力車を連ねて歸途に就く。驛には田中會長外數名來りて見送られ、午前十一時四十分懷かしき吾等の青島に向つて列車は動き出す。坊子驛には土屋主任、川鍋署長、中澤部長、平瀨、菅谷、江間、三井の諸氏態々出て當日の歸途を歡送せられ、夫れより今回の診療地、高密膠州を過ぎ藍村に至り、列車内に電燈も點せられ遙かに青島の燈光天に映ずるを見る、間もなく滄口四方も過ぎて車は青島に入る。ホームには院長、副院長始め多數職員家族の熱誠なる歡迎を受け、二週餘日に涉る勞苦の程も一時に

忘るゝの感あり。院長より無事歸任を喜ぶ挨拶と共に、吾等に對し溫情溢るゝ歡迎の詞を賜はり、玆に第二回巡廻診療班を解散せり。

八、實・行成績

各診療地に於ける患者の各科別統計を概觀するに

男女別統計表（第二回診療班）

診療地＼診察日	男 第一日	男 第二日	男 第三日	男 計	女 第一日	女 第二日	女 第三日	女 計	總計
膠縣	六〇	九一	—	一五一	二六	四九	—	七五	二二六
高密	二七八	三〇一	—	五七九	一四八	二六三	—	四一一	九九〇
坊子	一〇二	一三六	二三一	四六九	一二〇	一四〇	二四二	五〇二	九七一
益都	八二	九三	一七九	三五四	四九	七四	一二二	二四五	五九九
計	五二二	六二一	四一〇	一、五五三	三四三	五二六	三六四	一、二三三	二、七八六

年齡別患者統計表（第二回診療班）

診療地＼年齡	一—一〇	一一—二〇	二一—三〇	三一—四〇	四一—五〇	五一—六〇	六一—七〇	七一—八〇	八一—九〇	九一—一〇〇	計
膠縣	二一	三二	三八	四五	三五	二五	二一	八	一	—	二二六
高密	八三	一九五	一八八	一六九	一九八	五八	六八	二一	一〇	—	九九〇
坊子	六九	一〇八	二〇一	一八五	一二八	一八二	三二	五七	八	一	九七一
益都	三九	九七	六七	一一二	一一六	一〇八	四五	九	六	—	五九九
計	二一二	四三二	四九四	五一一	四七七	三七三	一六六	九五	二五	一	二、七八六

各科別患者表（第二回診療班）

診療地＼科別	內科	外科	小兒科	產婦人科	皮膚科	尿科	眼科	耳鼻科	齒科	合計
膠縣 男	三三	一七	二〇	—	三一		二九	一七	四	一五一
膠縣 女	一九	九	六	二	一五		二二	二	—	七五
膠縣 計	五二	二六	二六	二	四六		五一	一九	四	二二六

新患、舊患患者表（第二回診療班）

	都		釜		子		坊		衛		高		計		
	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男
計	一五八	七八	八〇	七三	三三	四〇	四八	一六	一一	二四四	一三二	一一二	七一三	三七三	三四〇
	五九九	二四五	一一	一一	三九	六三	一〇二	三五	三五	一〇四	一七	一七	六五	一四〇	一七四
	五二	四一	三九	四	五一	五五	一四七	五二	一一六	五七	三〇〇	一二八	二五一	六三九	二七九
	九四五	一一	五四	九	一四	九五	一七八	九七	一一六	一一	二四	一一	六五	一三四	一〇五
	九九〇	四一一	五七九	四六九	五〇二	九七一	三〇〇	一二八	一七二	六五	二六	一〇六	一七四	二七八	二七九
	二、五五三	一、二三三	二、七八六	二、一四	一、三三	一、五四	五九九	二五九	一六三	二四四	一七七	一一三	二四三	二七三	二七四

（74）

病類別患者表（第二回診療班）

總計		計		新患		舊患		合計 新患		合計 舊患	
		日本	中國	日本	中國	日本	中國	日本	中國	日本	中國
計	計	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
二、七八六	二、一四	八九五	二、〇二五	一六	六八	一六	六五六	合計	二、一一四	六七七	二六
六三	六五	一六	一一	一一	一一	一一	一一	合計	一一	一一	一一
二五一	一八八	一一	三四三	一一	三四三	一一	一一	合計	三四五	三七九	三四九
六三九	三四四	一一	一一〇	一一	一一〇	一一	一一	合計	一六二	一八一	一一
六七六	三七七	一四七	一四五	一四五	一四五	一四五	一四五	合計	一四五	一七八	一七九
二七九	一〇五	一一	一一	一一	一一	一一	一一	合計	一一	一一	一一
六五	一七四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	合計	一一	一一	一一
三六五	一三四	一〇二	三九	六三	三九	六三	三九	合計	三九	六三	三九
六七六	三七七	一四七	一四五	九五	一四五	九五	一四五	合計	一四五	一七八	一四五
二五一	一六三	五一	一一	三九	一一	三九	一一	合計	一一	一一	一一
六三	三四	九	四	五	四	五	四	合計	四	一一	四
二七八六	一、五五三	五九九	二四五	三三四	九七一	九五〇二	四六九	合計	二七八六	一、二三三	二七八六

（75）

病類別＼患者數	中國人 男	中國人 女	中國人 計	日本人 男	日本人 女	日本人 計	計 男	計 女	計 計
結核疾患 呼吸器	四六	一八	六四	五	四	九	五一	二二	七三
結核疾患 消化器	三	二	五	—	—	—	三	二	五
結核疾患 骨	一三	一一	二四	—	—	—	一三	一一	二四
地方病 マラリヤ	二	—	二	—	—	—	二	—	二
地方病 赤アメーバ病	三	二	五	—	—	—	三	二	五
全身疾患	二〇	一五	三五	—	—	—	二〇	一五	三五
神經疾患	四六	二六	七二	二	—	二	四八	二六	七四
呼吸器疾患	二八九	二三四	四〇三	一五	一二	二七	三〇四	二四六	五五〇
血行器疾患	三〇	四四	七四	—	—	—	三〇	四四	七四
營養器疾患	一一五	二二〇	三三五	三	二	五	一一八	二二二	三四〇
泌尿生殖器疾患	二九	一六	四五	—	—	—	二九	一六	四五
婦人科諸疾	—	五三	五三	—	二	二	—	五五	五五
性病	一八	一〇	二八	—	—	—	一八	一〇	二八
眼疾患	三七七	二九六	六七三	—	三	三	三七七	二九九	六七六

耳鼻疾患	一四三	七一	二一四	二〇	一七	三七	一六三	八八	二五一
皮膚疾患	一八四	一一八	三〇二	—	—	—	一八四	一二〇	三〇四
運動器疾患	三八	一〇	四八	—	—	—	三八	一〇	四八
外傷及不慮	五六	一二	六八	—	—	—	五六	一二	六八
其他疾患	八六	二五	一一一	一〇	八	一八	九六	三三	一二九
合計	一、四九八	一、一八三	二、六八一	五五	五〇	一〇五	一、五五三	一、二三三	二、七八六

各地共に第一日より第二日、第三日と漸次患者の増加を見たるは事前に宣傳の不足せるものと認められ、膠縣益都に於ても、より以上の宣傳と省政府の援助あらば本回は四千名以上の患者を診療したることゝ思はれる。年齢別には三十一才乃至四十才位の患者が各地共に多く、各科別に見る時は內科、眼科の患者多く、總數の各四分の一を占む。新患、舊患の區別を見るに皮膚科、眼科、耳鼻科は診療日毎に處置し最後の日に投藥せるに依り舊患多きも、內科、小兒科の患者は大抵三日分宛の藥を與へし爲め舊患者少し。病類別には結核疾患多くして、『カラアザール』は豫期に反し少く僅に高密三名、益都二名なり。

投藥數（第二回診療班）

劑數＼地名	內劑	外劑	投藥總數	診療日數
膠縣	二二三	九三	三一六	二日間

高寮	七八九	二七一	一、〇六〇	二日間	
坊子	九五一	一九三	一、一四四	三日間	
益都	五一四	一九三	七〇七	三日間	
計	二、四七七	七五〇	三、二二七	十日間	

内服藥は凡て散藥となし、主に三日分を投與し、眼科は高度と輕度とを問はず毎日處置を施し、最終日に高度なる眼疾患者にのみ點眼瓶に入れて與へ、益都にては遂に瓶の不足を見るに至れり。皮膚疾患も同樣毎日處置をなし最終療に投藥せり。藥劑は第一回診療班より多數の準備をなせるも、坊子に於て補給を受けたる狀況なり。

九、經費出納事項

(一) 收　入

各地共に公安局の手に依りて免費診療券を五百枚宛配布し、免費診療券なき患者は實費徵集の豫定なりしも、第一回診療班の狀況に鑑み、全て施療となせしに由り收入は皆無なり。

(二) 支　出

出發に先ち班員の汽車賃、各地の診療所の借用料、中國官憲招待費として銀五百元を携行せり。

支出額は左の如し。

科目	支出額(金)	支出額(銀)	計(金銀同價とし)	說明
俸給 旅費	—	八一四、六三圓	八一四、六三圓	診療班員、宣傳員旅費
給諸賞與	—	二四五、〇〇	二四五、〇〇	班長以下に支給の賞與
治療費(藥劑材料費)	二三五、五九圓	一、六五	二三七、二四	金禮在庫品使用の分戻入高銀は現地訓辨品代金の内一六圓二三錢は在庫品使用の分戻入高五〇、七三
需要費 消耗品費	五〇、七三	一、九五	五〇、七三	
通信運搬費	—	一四、三六	一四、三六	長距離電話二圓四十錢其他は荷物運搬費なり
雜費	—	七七、四〇	七七、四〇	診療所借入料招宴費心付等なり
計	二八六、三二	一、二五四、九九	一、四四一、三一	

十、診療後の感想並びに將來の巡廻診療班に對する希望

(一) 本回の巡廻診療地四ケ所を比較するに、患者數に於ては高密、坊子多きも兩地は單に苦力階級が多く、從つて智識階級多き膠縣、益都に於て眞の日本醫學を紹介するの必要ありと認む。

(二) 診療所は各地共に民屋を借入使用したるも、第一回の如く官有家屋を使用することを得ば、診療班としても都合良く、且つ民衆にも好感を與へたらむと認めらる。

（三）單に二名の醫師にて來患者全般に亘る診療は、眞の日本醫學を認識せしむること難事なれば、少くとも一ケ月以前より宣傳して、一ケ月一回にても本院各科共に一名宛同時に出張して一日の診療をなせば、より以上の目的を達すべしと認めらる。

（四）惡汚水を飲み、粗食を食ひ、高粱ベッドに横り、充分なる睡眠を取る事を得ざる班員に、二週間の診療は日本內地の巡廻診療と違ひ班員の健康を害すること多ければ、一ケ月一回にても單に一ケ所位の診療にて歸院するの必要ありと認む。其際には診療期間一ケ所三日乃至五日とする要ありと認む。

稿を終るに臨み第一回、第二回巡廻診療班に加り、第二回巡廻診療班歸院後數日にして鬼籍に入れる故田沼事務員の努力に感謝の意を表す。

山東省東部地方巡廻診療報告
非賣品

昭和十二年四月五日印刷
昭和十二年四月十日發行

編輯者　同仁會青島醫院巡廻診療班

發行者　財團法人　同仁會
東京市神田區神保町二ノ十

印刷者　野口吉照

印刷所　野口活版所
東京市本所區竪川一ノ三
電話本所(73)三八〇五番

發行所　財團法人　同仁會
東京市神田區神保町二ノ十
電話九段(33)二〇三〇番
振替口座東京一一九七〇番

372
661

同仁會青島醫院

青島市江蘇路

電話 五一八一・五一八二・五一八三

皮膚泌尿器科	院長	醫學士	藥本定次郎
內科	醫員	東京醫學博士	西村英三郎
	醫長	醫學士	尾河順太郎
外科	醫長	醫學士	谷長珠夫
	醫員	青島醫學士	田郷實綱
小兒科	醫長	醫學士	吉田振重
	醫員	千葉醫學博士	字諏訪瀬
	副院長	醫學博士	田川與三郎
產科婦人科	醫長	醫學士	安藤順郎
	醫員	京城醫學士	新宮清三郎
	醫員	青島醫學士	張內原啓太郎
眼科	醫長	醫學士	矢林敏政郎
耳鼻咽喉科	醫長	醫學士	小口壽亨助
	醫員	千葉醫學士	伊山文
齒科	醫員	日本齒科醫學士	邱藤鐵郎
藥劑師	藥局長		寄田澤十四郎
事務室	事務長		邊定吉郎

終